

# 海外視察派遣報告書

視察先 ポーランド共和国・リトアニア共和国

日 程 2015年11月1日～2015年11月9日

岐阜県議会議員

藤 墳 守

小川 恒雄

加藤 大博

# 視察目的

『杉原リストー1940年、杉原千畝が避難民救済のため人道主義・博愛精神に基づき大量発給した日本通過ビザ発給の記録』を八百津町が申請主体となり、ユネスコの世界記憶遺産登録に向けた活動が現在進められている。同時に、岐阜県も登録に向け全面的な支援を行うこととしている。こうした状況を踏まえ視察の目的は以下の二点とする。

1. 杉原氏の功績は、近年国内においては高く評価されているが、海外ではどの程度認知され、加えてどういった評価が為されているのか。
2. 杉原氏に行動をとらせた要因でもある当時のユダヤ人迫害についての実態と、その検証が現在どの様に行われているか。

舞台となったポーランド共和国・リトアニア共和国を訪問し調査を行う。

# 視察概要

- ① 第2次世界大戦以前のユダヤ人とヨーロッパ社会との関わりに関するもの
- ② 第2次世界大戦直前から大戦中におけるユダヤ人迫害（強制収容所、ホロコースト）に関するもの
- ③ 杉原千畝氏とその行動に対する評価等に関するもの

# 報告書構成

1. 杉原千畝氏 略歴
2. ポーランド共和国 概略
3. リトアニア共和国 概略
4. 第2次世界大戦以前のヨーロッパにおけるユダヤ民族の位置づけと、強制収容所・ホロコースト
5. 杉原千畝氏とその行動に対する評価
6. 視察を終えて





# 1. 杉原千畝氏略歴

# 杉原 千畝 氏 略歴

- 1900年（明治33年）生まれ。現在の岐阜県加茂郡八百津町出身。旧制愛知県立第五中学校を経て、1918年（大正7年）現在の早稲田大学教育学部英語英文科に入学。しかし、医者になることを望んでいた父の意に反し、医学部の受験に際しては白紙答案を提出。弁当だけを食べて帰宅するといった結果の進学であったため仕送りなどは望めず、早朝の牛乳配達のアルバイトを行うなどしていた。しかし、学費と生活費をまかなうことは難しい状況であった。そうした中、図書館で偶然目にした地方紙の掲示（大正8年5月23日付の「官報」第2039号）により外務省留学生試験の存在を知り、猛勉強の末この試験に合格。僅か一年あまりで早稲田大学を中退。
- 1919年（大正8年）外務省ロシア語留学生として満州ハルピンへ渡る。
- 1924年（大正13年）外務省書記生として採用される。

# 杉原 千畝 氏 略歴

- 1926年（大正15年）六百頁余にわたる『ソヴィエト聯邦國民經濟大觀』を書き上げる。外務省内で高い評価を受け、26歳の若さにしてロシア問題のエキスパートとして頭角を現す。
- 1932年（昭和7年）3月 満洲国の建国。ハルピンの日本総領事館にいた千畝は、満洲国政府の外交部に出向となる。
- 1933年（昭和8年）満洲国外交部にて政務局ロシア科長兼計画科長としてソ連との北満洲鉄道譲渡交渉を担当。鉄道及び付帯施設の周到な調査結果をソ連側に提示。ソ連側の当初要求額の6億2,500万円を1億4,000万円にまで値下げさせた。ソ連側の提示額は、当時の日本の国家予算の一割強に値するものであり、杉原による有利な譲渡協定の締結は日本に大きな外交的勝利をもたらした。
- 1935年（昭和10年）満洲国外交部を退官。

# 杉原 千畝 氏 略歴

- 1937年（昭和12年）フィンランドの在ヘルシンキ日本公使館に赴任。（当初、在モスクワ大使館に赴任する予定であったが、ソ連側が入国を拒否したため実現せず。）
- 1939年（昭和14年）リトアニアの在カウナス日本領事館領事代理就任。同年8月28日 カウナス（当時の首都）に着任。
- 1940年（昭和15年）7月 領事館に救いを求めてやってきたユダヤ避難民等にビザを発給。外務省からの退去命令にともない、在プラハ領事館に着任後も独ソ開戦の情報を掴むなど東ヨーロッパを中心に活動。
- 終戦後ソ連軍に一時拘束された後、1947年（昭和22年）帰国し外務省を退官。退官後も卓越した語学力を活かし貿易商や翻訳者として活躍。
- 1985年（昭和60年）イスラエル政府より多くのユダヤ人の命を救出した功績で日本人では唯一の「諸国民の中の正義の人」として「ヤド・バシエム賞」を受賞。翌年1986年（昭和61年）に86歳でその生涯を閉じる。

## 2. ポーランド共和国 概略



# ポーランド共和国 概略

- 面積 32.2万km<sup>2</sup>（日本の約5分の4）
- 人口 約3,848万人（2014年：IMF）
- 首都 ワルシャワ（約172万人）
- 民族 ポーランド人（人口の約97%）
- 言語 ポーランド語
- 宗教 カトリック（人口の約88%）
- 政体 共和制
- 議会 二院政（下院460議席、上院100議席。共に任期4年）

〈参照〉外務省HPなど

# ポーランド共和国 概略

- 主要産業 食品、金属、自動車、電気電子機器、コークス、石油精製
- 通貨単位 ズロチ 1ズロチ=約26円
- GDP 約5,259億ドル（2013年）
  - EU28加盟国中8位。但し、購買力平価GDPでは同6位
  - チェコ、ハンガリー、スロバキア3カ国のGDPとほぼ同額
  - 一人当たりGDP 約13,647ドル（2013年）

〈参照〉外務省HPなど

# ポーランド共和国 概略

年月	略史
966年	ピアスト朝, キリスト教を受容
1386年	ヤギエウォ朝の成立
1573年	選挙王朝
1795年	第3次分割によりポーランド国家消滅
1918年	独立回復
1945年7月	国民統一政府の樹立
1989年9月	非社会主義政権の成立
1999年3月	NATO加盟
2004年5月	EU加盟

- 10世紀に建国。15～17世紀には東欧の大国。
- 18世紀末には3度にわたり、ロシア、プロシア、オーストリアの隣接三国に分割され第一次大戦終了までの123年間、世界地図から姿を消す。
- 第二次大戦ではソ連とドイツに分割占領された。大戦での犠牲者は、総人口の5分の1を数え世界最高の比率。
- 大戦後はソ連圏にくみ込まれたが、「連帯」運動（1980年代）など自由化運動が活発で、東欧諸国の民主化運動をリードした。1989年9月、旧ソ連圏で最初の非社会主義政権が発足した。
- 「欧州への回帰」を目標に、1999年3月にNATO加盟、2004年5月にはEU加盟を果たした。

〈参照〉外務省HPなど



# 3. リトアニア共和国 概略



# リトアニア共和国 概略

- 面積 6.5万km<sup>2</sup>
- 人口 291,6万人（2015年3月：リトアニア統計局）
- 首都 ビリニュス（約54万人、2014年：リトアニア統計局）
- 民族 リトアニア人（人口の約83%）
- 言語 リトアニア語
- 宗教 主にカトリック
- 政体 共和制
- 議会 一院制（141議席、任期4年）

〈参照〉外務省HPなど

# リトアニア共和国 概略

- 主要産業 石油精製業、食品加工業、木材加工・家具製造業  
販売小売業、物流・倉庫業
- 通貨単位 ユーロ（2015年1月1日から導入）
- GDP 約459億ドル（2013年）
  - 一人当たりGDP 約15,538ドル（2013年）

〈参照〉外務省HPなど

# リトアニア共和国 概略

年月	略史
1253年	ミンダウガス大公がリトアニア国王となる。
1386年	ヨガイラ王、ポーランド王を兼ねる。 (リトアニア・ポーランド同君連合)
1569年	ポーランドと連合国家（二民族一共和国）
1795年	第3次三国分割により大部分がロシア領となる。
1918年	独立を宣言。
1920年	ソ連より独立。
1940年	ソ連に併合。
1990年2月	共和国最高会議選挙。
1990年3月	独立回復宣言。
1991年9月6日	ソ連国家評議会バルト三共和国の国家独立に関する決定を採択。
2001年5月	WTO加盟。
2004年3月	NATO加盟。
2004年5月	EU加盟。

〈参照〉外務省HPなど

#### 4. 第2次世界大戦以前のヨーロッパにおける ユダヤ民族の位置づけと、強制収容所・ホロコースト



## 4. 第2次世界大戦以前のヨーロッパにおけるユダヤ民族の位置づけと、強制収容所・ホロコースト

### 【目的】

第2次世界大戦以前のユダヤ人とヨーロッパ社会との関わりについて調査し、その後の強制収容やホロコーストに繋がる歴史的・社会的背景について理解を深める。また、遺構や資料などからその実態について調査を行う。

### 【視察先】

〈ポーランド（クラフク、ワルシャワ）〉

- i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）
- ii) アウシュヴィッツ強制収容所
- iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所
- iv) ユダヤ人歴史博物館



# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



## 【カジミエシュ地区 街並】

クラフク南部にあるかつてのユダヤ人居留区。他のヨーロッパ諸国と比較しユダヤ人に対し、寛容であったポーランド王国には13世紀以降多くのユダヤ人が集まっていたとのこと。

現在は、様々な人が住む地域となっており、一時期は治安の悪化などもあったそうだが、近年は再開発の影響などもありその様なことはなく美しい街並みの地区となっている。

# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



## 【カジミエシュ地区 街並】

クラフク南部にあるかつてのユダヤ人居留区。他のヨーロッパ諸国と比較しユダヤ人に対し、寛容であったポーランド王国には13世紀以降多くのユダヤ人が集まっていたとのこと。

現在は、様々な人が住む地域となっており、一時期は治安の悪化などもあったそうだが、近年は再開発の影響などもありその様なことはなく美しい街並みの地区となっている。



# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



## 【カジミエシュ地区 街並】

クラフク南部にあるかつてのユダヤ人居留区。他のヨーロッパ諸国と比較しユダヤ人に対し、寛容であったポーランド王国には13世紀以降多くのユダヤ人が集まっていたとのこと。

現在は、様々な人が住む地域となっており、一時期は治安の悪化などもあったそうだが、近年は再開発の影響などもありその様なことはなく美しい街並みの地区となっている。

# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



【カジミエシュ地区】

スタラ・シナゴーク

カジミエシュ地区にある、ポーランド最古のユダヤ教会。シナゴークとはユダヤ教の会堂。キリスト教での教会とは役割が異なるとのこと。

現在は、ユダヤ博物館となっている。

写真に写っている子ども達は、修学旅行生ではないかとのこと。



# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、 シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



【カジミエシュ地区】

レム・シナゴーク

この地域で2番目に古く、また歴史的なユダヤ教墓地が隣接するシナゴーク。名前はラビ・レムと呼ばれたユダヤ教の伝説的な聖職者の名前に由来しており、今でもユダヤ教徒の巡礼の地となっているとのこと。

街の各所にシナゴークなどのユダヤ人居留区時代の痕跡が残され当時の様子が偲ばれる。

# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



## 【カジミエシュ地区 街並】

ユダヤ人は少なくなったが、街の各所にシナゴグが残っていたり、ヘブライ語などユダヤ人に関連するものが多く残っている。

写真は伝統的なユダヤ料理を食べることの出来るレストランのこと。



## i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



### 【カジミエシュ地区 街並】

クラフク南部にあるかつてのユダヤ人居留区。他のヨーロッパ諸国と比較しユダヤ人に対し、寛容であったポーランド王国には13世紀以降多くのユダヤ人が集まっていたとのこと。

クラフクやその周辺で暮らしたポーランド系ユダヤ人はホロコーストによって65,000人もの人々が亡くなった。そのことを記す記念碑が設置されている。

人だかりは、修学旅行生ではないかとのこと。



## i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



### 【カジミエシュ地区 街並】

クラフク南部にあるかつてのユダヤ人居留区。他のヨーロッパ諸国と比較しユダヤ人に対し、寛容であったポーランド王国には13世紀以降多くのユダヤ人が集まっていたとのこと。

クラフクやその周辺で暮らしたポーランド系ユダヤ人はホロコーストによって65,000人もの人々が亡くなった。そのことを記す記念碑が設置されている。

人だかりは、修学旅行生ではないかとのこと。

## i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



### 【カジミエシュ地区 街並】

クラフク南部にあるかつてのユダヤ人居留区。他のヨーロッパ諸国と比較しユダヤ人に対し、寛容であったポーランド王国には13世紀以降多くのユダヤ人が集まっていたとのこと。

クラフクやその周辺で暮らしたポーランド系ユダヤ人はホロコーストによって65,000人もの人々が亡くなった。そのことを記す記念碑が設置されている。



# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、 シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



## 【カジミエシュ地区 街並】

Place of meditation upon the martyrdom of 65 thousand Polish citizens of Jewish nationality from Cracom and its environs killed by the Nazis during world war 2

第二次世界大戦中にナチスによって殺されたクラフクとその周辺のポーランド系ユダヤ人65,000人の受難について瞑想する場

とある・・・と思う。



# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、 シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



## 【ヴィスワ川】

ポーランド国内を大きく蛇行しながら北へ流れ、バルト海へと注ぐ河川。

ポーランドで最長の河川。

カジミエシュ地区と第2次大戦中ユダヤ人隔離地区（ゲットー）となったポドゥグージェ地区を隔てる川。

多くのユダヤ人が僅かな荷物とともに数百メートルしか離れていないカジミエシュ地区から強制隔離地区となったポドゥグージェ地区まで、この川に架かる橋を自ら渡って移動した。

# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



## 【ポドゥグージェ地区】

ユダヤ人隔離地区（ゲットー）となったポドゥグージェ地区の広場。

隔離以前は3,000人程度のユダヤ人が住む地域だったが、非ユダヤ人を強制的に移住させた上で15,000人ものユダヤ人をこのクラフク・ゲットーに住まわせた。当時は、壁で囲まれた当に隔離地域だったとのこと。

また、その壁はユダヤ人の墓に似せたモノであった。



# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、 シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



## 【ポドゥグージェ地区】

広場にある椅子のオブジェは、  
ここで亡くなったユダヤ人を偲  
ぶために創られたもの。

当時は、限られた土地や建物に  
多くの人押し込められており、  
筆舌に尽くしがたい劣悪な環境  
であったとのこと。

# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、 シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



## 【ポドゥグージェ地区】

広場にある椅子のオブジェは、ここで亡くなったユダヤ人を偲ぶために創られたもの。

当時は、限られた土地や建物に多くの人が押し込められており、筆舌に尽くしがたい劣悪な環境であったとのこと。



# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、 シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



## 【ポドゥグージェ地区】

ユダヤ人隔離地区となったポドゥグージェ地区の広場。

写真は、取り壊されずに残った施設の一部。

# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、 シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



## 【シンドラー博物館】

オスカー・シンドラーが経営していたホウロウ工場（Oskar Schindler's Factory “Emalia”）跡をクラフク歴史博物館の一部として2010年にリニューアルしたものの。

「クラフク歴史博物館」は14の施設で構成されている。「シンドラー博物館」は、その1つとして、ナチス占領下のクラフク市民のリアルな暮らしを伝えることを目的としている。

# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、 シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



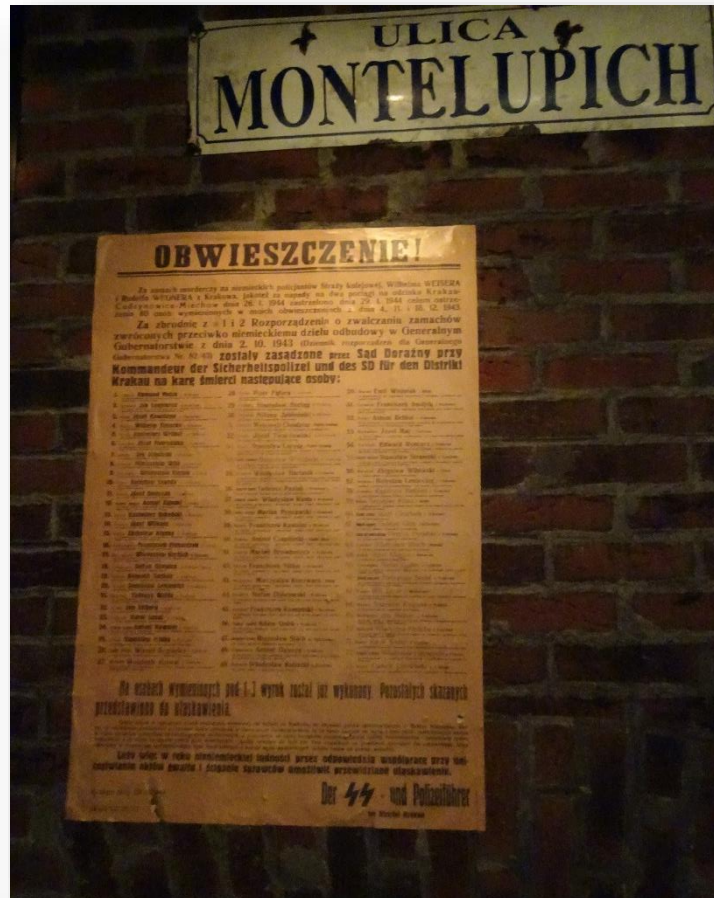
## 【シンドラー博物館】

オスカー・シンドラーが経営していたハウロウ工場（Oskar Schindler's Factory "Emalia"）跡をクラフク歴史博物館の一部として2010年にリニューアルしたものの。

シンドラーの工場はもとよりカジミエシュ地区やポドゥグージェ地区は、「シンドラーのリスト」のロケ地であり、監督であるスピルバーグ監督もユダヤ系である。



# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、 シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



## 【シンドラー博物館】

14施設からなる「クラフク歴史博物館」の1つとして、ナチス占領下のクラフク市民の暮らしを伝えることを目的としているとのこと。

強制収容所やゲットーと呼ばれるユダヤ人隔離地域での生活の再現や、当時の社会状況を知ることが出来るようクラフクの日常生活や街の様子なども再現されている。

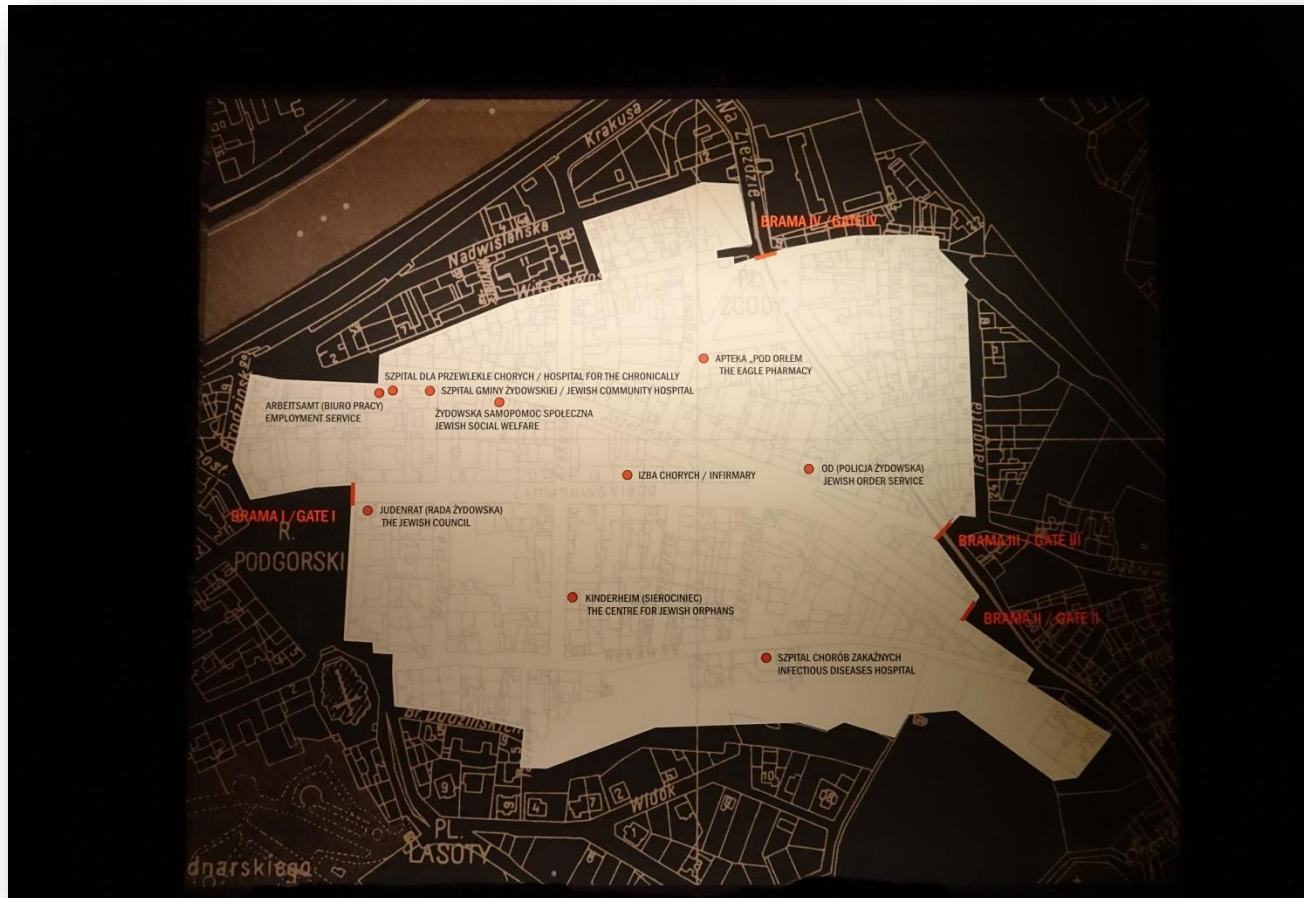


# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、 シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）

## 【シンドラー博物館】

14施設からなる「クラフク歴史博物館」の1つとして、ナチス占領下のクラフク市民の暮らしを伝えることを目的としているとのこと。

写真は、クラフクにあったゲットーを示したもの。椅子のモニュメントがあった広場は、写真上部の赤文字、BRAMA IV / GATE IVの表示がある辺り。



# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、 シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



## 【シンドラー博物館】

14施設からなる「クラフク歴史博物館」の1つとして、ナチス占領下のクラフク市民の暮らしを伝えることを目的としているとのこと。

写真は、ゲットーを囲んでいた壁を再現したもの。ユダヤ人の墓石を模したものになっている。

# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、 シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



## 【シンドラー博物館】

14施設からなる「クラフク歴史博物館」の1つとして、ナチス占領下のクラフク市民の暮らしを伝えることを目的としているとのこと。

オスカー・シンドラーの執務室を再現した部屋。



# i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、 シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）



## 【シンドラー博物館】

写真は、ゲットー内部での生活を再現したものの一部。15,000人ものが限られた空間、施設に收容されたため非常に劣悪な環境での生活を強いられていた。写真の部屋では、4・5人が生活をしていたとのこと。

他にも多くの再現展示があり当時の状況がより理解できるよう工夫がなされている。

## i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、 シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）感想

中世から近代までヨーロッパにおいて、ユダヤ人に最も寛容であったポーランド王国には多くのユダヤ人が居住することとなった。

とりわけ17世紀初頭にワルシャワに遷都するまでポーランド王国の首都として栄えたクラフクには多くのユダヤ人が居住していた。

1938年にナチスドイツに占領された際、クラフクには街の人口の4分の1にあたる64,000人を超えるユダヤ人が暮らしていたとされる。

ユダヤ人は居住を許された地域「ゲットー」にコミュニティーを形成し暮らしていたが、その名残をカジミエシュ地区やポドゥグージェ地区に見ることができる。

一般にゲットーとは、ナチス・ドイツにより建設されたユダヤ人の強制隔離地区を連想させる。しかし本来は、中世ヨーロッパにおいて法律によってユダヤ人が居住を許された地区を示すものだ。

## i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、 シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）感想

カジミエシュ地区には、歴史あるシナゴークなどが残されており、随所にユダヤ人コミュニティの痕跡を見ることができる。戦後、住人のほとんどがいなくなってしまうことなどからスラム化した時期もあったようだ。しかし近年では、再開発などの影響もあり、美しい街並みを取り戻している。

ポドゥグージェ地区は、ナチスによって造られたクラフク・ゲットーの跡地がある。カジミエシュ地区からヴィスワ川に架かる橋を渡ってすぐ、歩いて10分程度の距離だ。ここに収容されたユダヤ人も家財道具などを持って歩いて橋を渡ったそうだ。

ゲットーは、移送作戦（ゲットーから強制収容所へユダヤ人を移送させる作戦）終了後に解体されてしまったが、街の各所にその痕跡などを見ることができる。また、シンドラー博物館では、当時のクラフク市民の生活やゲットー内でのユダヤ人の生活を窺い知ることができる。

## i) クラフク旧ユダヤ人居留区、ゲットー跡地、 シンドラー博物館（クラフク歴史博物館）感想

シンドラーは誰もが知る偉人だ。しかし、その工場がゲットーやユダヤ人のかつての住まいすらもすぐ側（そば）にあり、映画「シンドラーのリスト」が箱庭（箱庭）のような地域での出来事であったことはあまり知られていないのではないか。

ユダヤ人の強制収容はアウシュビッツに代表されるように遠くの施設へ列車で運ばれ・・・というイメージが強いが、普通の街の中の一般市民の生活の傍らで行われていたという事実。また、そうした事を許容する世論やそれを受け入れざるを得ないユダヤ人の複雑な立場に強い衝撃を受けた。

また、ゲットーとかつての生活の場を繋ぐ距離があまりにも近すぎる。ゲットーで亡くなった多くのユダヤ人もいずれ戦争が終われば目と鼻の先にある自宅に戻れると信じていたのではないかと思うとやりきれない。



## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

第二次世界大戦中にナチス・ドイツが国家をあげて推進した人種差別的な絶滅政策(ホロコースト)および強制労働により、最大級の犠牲者を出した強制収容所。収容された90%がユダヤ人であった。

一部現存する施設は「ポーランド国立オシフィエンチム博物館」が管理・公開している。

(参照：HPなど)





## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュヴィッツ第一強制収容所はドイツ占領地のポーランド南部オシフィエンチム市（ドイツ語名アウシュヴィッツ）に、アウシュヴィッツ第二強制収容所は隣接するブジェジンカ村（ドイツ語名ビルケナウ）につくられた。周辺には同様の施設が多数建設されている。ユネスコの世界遺産委員会は、二度と同じような過ちが起こらないようにとの願いを込め、1979年に世界遺産リストに登録した。

(参照：HPなど)



## ii) アウシュヴィッツ強制収容所



### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュヴィッツの強制収容所は、そもそもポーランドがナチス・ドイツの支配下に置かれた1940年にポーランド人の政治犯を収容するために造られた。その後次第に、ソ連軍捕虜やユダヤ人、ロマ（中東欧に居住する移動型民族）も収容するようになり、施設の拡充が行われていったとのこと。

収容所の入り口でもあったゲートには、今も当時のまま「ARBEIT MACHT FREI（働けば自由になれる）」の看板が掲げられている。



## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所は当初、政治犯や捕虜の収容所として設計・建設された。そのため私達が強制収容所と聞いてイメージするものとは少し違う印象を受ける。実際、建物や施設も快適とは言えなくも非人道的なものでは全くない。街並みも整然としていてむしろ美しいという印象を受ける。

実際初期のものほど造りが良いそうだ。

戦争の長期化と戦況の悪化など社会情勢の変化の中で施設の持つ役割や人種隔離政策の持つ意味も変化していったことが感じられる。



## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所は当初、政治犯や捕虜の収容所として設計・建設された。そのため私達が強制収容所と聞いてイメージするものとは少し違う印象を受ける。実際、建物や施設も快適とまでは言えなくも非人道的なものでは全くない。

実際初期のものほど造りが良いそうだ。

多くの人々を収容するために地下にも部屋が造られたが、外光を採るために窓もちゃんと造られている。

こうした配慮は、人々を隔離し押し込め、殺戮するためだけの施設として建設されたものではないことを証明していると感じる。





## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所は当初、政治犯や捕虜の収容所として設計・建設された。そのため私達が強制収容所と聞いてイメージするものとは少し違う印象を受ける。実際、建物や施設も快適とまでは言えなくも非人道的なものでは全くない。街並みも整然としていてむしろ美しいという印象を受ける。

実際初期のものほど造りが良いそう  
だ。

戦争の長期化と戦況の悪化など社会情勢の変化の中で施設の持つ役割や人種隔離政策の持つ意味も変化していったことが感じられる。



## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所は当初、政治犯や捕虜の収容所として設計・建設された。そのため私達が強制収容所と聴いてイメージするものとは少し違う印象を受ける。実際、建物や施設も快適とまでは言えなくも非人道的なものではない。街並みも整然としていてむしろ美しいという印象を受ける。

実際初期のものほど造りが良いそうだった。

戦争の長期化と戦況の悪化など社会情勢の変化の中で施設の持つ役割や人種隔離政策の持つ意味も変化していったことが感じられる。





## ii) アウシュヴィッツ強制収容所



### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所は当初、政治犯や捕虜の収容所として設計・建設された。そのため私達が強制収容所と聞いてイメージするものとは少し違う印象を受ける。実際、建物や施設も快適とまでは言えなくも非人道的なものでは全くない。街並みも整然としていてむしろ美しいという印象を受ける。

実際初期のものほど造りが良いそうだ。

戦争の長期化と戦況の悪化など社会情勢の変化の中で施設の持つ役割や人種隔離政策の持つ意味も変化していったことが感じられる。



## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所は当初、政治犯や捕虜の収容所として設計・建設された。そのため私達が強制収容所と聞いてイメージするものとは少し違う印象を受け。実際、建物や施設も快適とまでは言えなくも非人道的なものでは全くない。街並みも整然としていてむしろ美しいという印象を受ける。

実際初期のものほど造りが良いそうだ。

戦争の長期化と戦況の悪化など社会情勢の変化の中で施設の持つ役割や人種隔離政策の持つ意味も変化していったことが感じられる。



## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所内の現存する建築物を利用し、当時の社会状況や施設内の様子を知ることが出来るよう資料展示がされている。

写真は、ヨーロッパ中からアウシュビッツにユダヤ人が集められたことを示す資料。



## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所内の現存する建築物を利用し、当時の社会状況や施設内の様子を知ることが出来るよう資料展示がされている。

写真は、ヨーロッパ各地にあったゲットーからアウシュビッツに移送されるユダヤ人を撮影したもの。当時、ヨーロッパ各地でこうした光景が見られたとのこと。



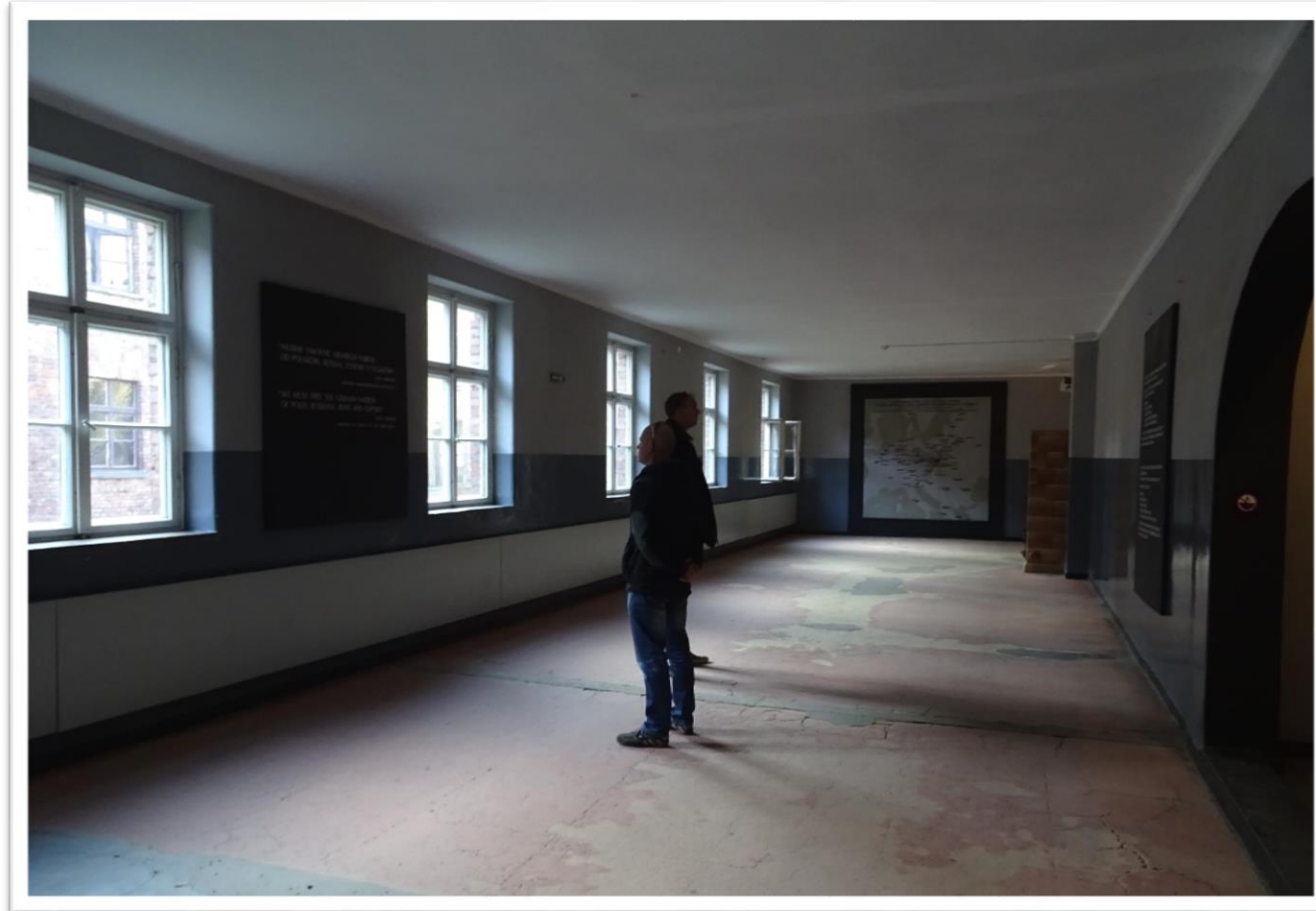


## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所内の現存する建築物を利用し、当時の社会状況や施設内の様子を知ることが出来るよう資料展示がされている。

がらんとした空虚な部屋が還って当時の状況を想像させる。





## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所内の現存する建築物を利用し、当時の社会状況や施設内の様子を知ることが出来るよう資料展示がされている。

ヨーロッパ各地からこの地を訪れる人が多くいる。



## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所内の現存する建築物を利用し、当時の社会状況や施設内の様子を知ることが出来るよう資料展示がされている。

写真は、ヨーロッパ中からアウシュビッツに集められたユダヤ人を検閲している様子。極々簡単な検査で強制労働とそれ以外を決定していたようだ。



## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所内の現存する建築物を利用し、当時の社会状況や施設内の様子を知ることが出来るよう資料展示がされている。

幼い子ども達は、大人とは別の検査などを行うという名目で、一旦両親達と離された。子ども大人もいずれ一緒に暮らせるものと思っていたが、そのまま還ってくることは無かったとのこと。





## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所内の現存する建築物を利用して当時の社会状況や施設内の様子を知ることが出来るよう資料展示がされている。

ヨーロッパ各地からこの地を訪れる人が多くいる。





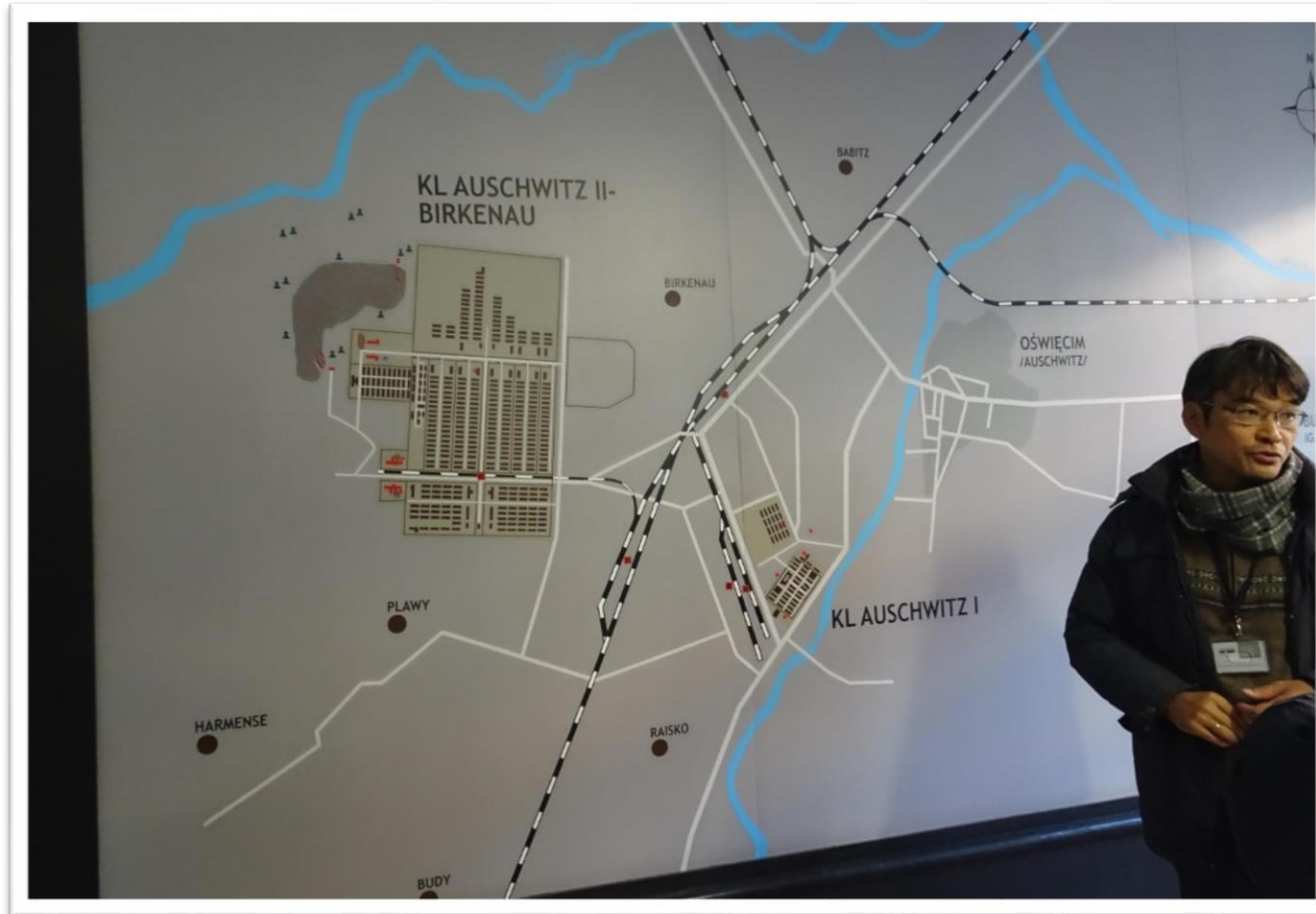
## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

写真は、アウシュビッツ強制収容所の周辺地図。現在地の第一収容所は地図の真ん中よりやや下の地域。後で造られた第2収容所の方が大規模なことが分かる。

また、ヨーロッパ各地からの移送を円滑にするため各施設に鉄道が引き込まれているのがわかる。

説明して下さったのは、アウシュビッツ博物館で唯一の日本人ガイド中谷さん。



## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

この日は、東ヨーロッパでは「死者の日」と呼ばれる、日本でいうお彼岸の様な日であったため、施設内でミサが行われていた。





## ii) アウシュヴィッツ強制収容所



### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所は当初、政治犯や捕虜の収容所として設計・建設された。そのため私達が強制収容所と聞いてイメージするものとは少し違う印象を受ける。実際、建物や施設も快適とまでは言えなくも非人道的なものでは全くない。街並みも整然としていてむしろ美しいという印象を受ける。

実際初期のものほど造りが良いそうだ。

戦争の長期化と戦況の悪化など社会情勢の変化の中で施設の持つ役割や人種隔離政策の持つ意味も変化していったことが感じられる。

## ii) アウシュヴィッツ強制収容所



### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所は当初、政治犯や捕虜の収容所として設計・建設された。しかし、収容者が爆発的に増加する中で施設内での生活も大きく変化していったようだ。

収容者の暮らすこうした部屋にも、当初はベットが設置されていたが、最終的には、藁がしかれその上に寝具が敷かれるなどした。

戦争の長期化と戦況の悪化など社会情勢の変化の中で施設の持つ役割や人種隔離政策の持つ意味も変化していったことが感じられる。



## ii) アウシュヴィッツ強制収容所



### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所は当初、政治犯や捕虜の収容所として設計・建設された。しかし、収容者が爆発的に増加する中で施設内での生活も大きく変化していったようだ。

収容者の暮らすこうした部屋にも、当初はベットが設置されていたが、最終的には、藁がしかれその上に寝具が敷かれるなどした。

戦争の長期化と戦況の悪化など社会情勢の変化の中で施設の持つ役割や人種隔離政策の持つ意味も変化していったことが感じられる。

## ii) アウシュヴィッツ強制収容所



### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所は当初、政治犯や捕虜の収容所として設計・建設された。そのため私達が強制収容所と聴いてイメージするものとは少し違う印象を受ける。実際、建物や施設も快適とまでは言えなくも非人道的なものでは全くない。

実際初期のものほど造りが良いそうだ。写真は、トイレ。

戦争の長期化と戦況の悪化など社会情勢の変化の中で施設の持つ役割や人種隔離政策の持つ意味も変化していったことが感じられる。

## ii) アウシュヴィッツ強制収容所



### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所は当初、政治犯や捕虜の収容所として設計・建設された。そのため私達が強制収容所と聴いてイメージするものとは少し違う印象を受ける。実際、建物や施設も快適とまでは言えなくも非人道的なものでは全くない。

実際初期のものほど造りが良いそうだ。写真は、洗面所。

戦争の長期化と戦況の悪化など社会情勢の変化の中で施設の持つ役割や人種隔離政策の持つ意味も変化していったことが感じられる。



## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所は当初、政治犯や捕虜の収容所として設計・建設された。そのため私達が強制収容所と聴いてイメージするものとは少し違う印象を受ける。実際、建物や施設も快適とまでは言えなくも非人道的なものでは全くない。

実際初期のものほど造りが良いそうだ。写真のような個室もあった。

戦争の長期化と戦況の悪化など社会情勢の変化の中で施設の持つ役割や人種隔離政策の持つ意味も変化していったことが感じられる。





## ii) アウシュヴィッツ強制収容所



### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所は当初、政治犯や捕虜の収容所として設計・建設された。しかし、収容者が爆発的に増加する中で施設内での生活も大きく変化していったようだ。

収容者の暮らすこうした部屋にも、当初はこの様にベッドが設置されていたが最終的には、藁などがしかかれその上に寝具が敷かれるなどした。

戦争の長期化と戦況の悪化など社会情勢の変化の中で施設の持つ役割や人種隔離政策の持つ意味も変化していったことが感じられる。

## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所は当初、政治犯や捕虜の収容所として設計・建設された。そのため私達が強制収容所と聞いてイメージするものとは少し違う印象を受ける。実際、建物や施設も快適とまでは言えなくも非人道的なものでは全くない。街並みも整然としていてむしろ美しいという印象を受ける。

人が歩いていると、ごく普通の古い街並みに見える。

戦争の長期化と戦況の悪化など社会情勢の変化の中で施設の持つ役割や人種隔離政策の持つ意味も変化していったことが感じられる。





## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所は当初、政治犯や捕虜の収容所として設計・建設された。そのため私達が強制収容所と聞いてイメージするものとは少し違う印象を受ける。実際、建物や施設も快適とまでは言えなくも非人道的なものでは全くない。街並みも整然としていてむしろ美しいという印象を受ける。

実際初期のものほど造りが良いそうだ。

戦争の長期化と戦況の悪化など社会情勢の変化の中で施設の持つ役割や人種隔離政策の持つ意味も変化していったことが感じられる。





## ii) アウシュヴィッツ強制収容所

### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

アウシュビッツ強制収容所は当初、政治犯や捕虜の収容所として設計・建設された。そのため私達が強制収容所と聞いてイメージするものとは少し違う印象を受ける。実際、建物や施設も快適とまでは言えなくも非人道的なものでは全くない。街並みも整然としていてむしろ美しいという印象を受ける。

実際初期のものほど造りが良いそうだ。

戦争の長期化と戦況の悪化など社会情勢の変化の中で施設の持つ役割や人種隔離政策の持つ意味も変化していったことが感じられる。



## ii) アウシュヴィッツ強制収容所



### 【アウシュヴィッツ強制収容所】

この日は、東ヨーロッパでは「死者の日」と呼ばれる、日本でいうお彼岸の様な日であったため、施設内ではミサも行われていた。

施設内の各所にたくさんの花が手向けられている。

ヨーロッパでは黄色い花は別れを暗示するものであるため、黄色い花が多く手向けてある。

## ii) アウシュビッツ強制収容所 感想

クラフクから西へ車で2時間弱、アウシュビッツ強制収容所。第2次世界大戦中ヨーロッパの各地からユダヤ人をはじめとする人種的・社会的マイノリティーの人々がこの施設に送られ虐殺された。

しかし当初は、そうした計画で造られた施設ではなかったようだ。初期の施設ほど、設計者の利用者に対する配慮を感じることできる造りになっている。写真にはないが後に建設された第2収容所であるビルケナウ強制収容所の小屋の様な施設とは比べものにならない。

戦況の変化などにより、ユダヤ人などへの隔離政策にも当初と比べ大きな変更があったことが推測される。

しかし、ここで1940年から1945年の僅か5年の間に150万人以上が犠牲になったという事実を斟酌する余地はない。



## ii) アウシュヴィッツ強制収容所 感想

アウシュビッツ強制収容所におけるナチスの兵士による監視は、思ったほど厳しいものではなかったようだ。それぞれのグループに配給や労役を差配するリーダーを置くことで、兵士ではなく身内同士で監視を行う体制を構築した。

同僚が監視するのであれば緩くなりそうなものだが、極限状態では逆に苛烈なほどに厳しいものになるそう。兵士であれば行き過ぎを上官が止めることもできる。結果として、抑止力が機能しない状況を常態化させてしまったことが、より多くの悲劇を生んでしまった原因でもあるようだ。

また、地域の人々にも非常時であったとはいえ、こうした惨状に直接または間接的に関わってきたことに関し大きな後悔がある。施設を保存していくことについても、早く忘れたいなどの理由で反対の意見もあったそう。しかし現在は、施設を保存し公開すること、ここで起きた過ちと教訓を後世に伝えていこうという意見が大勢だという。

## ii) アウシュビッツ強制収容所 感想

アウシュビッツ強制収容所内では、写真撮影が禁止されている場所がある。施設が放棄された当時のままに残された箇所、取り分け犠牲者の遺品や痕跡を示すものが多く残る場所は撮影することができない。

多くの人々がこの施設に立ち寄るが、その中には当然犠牲者の身内や関係者もいる。そうした方々への配慮だという。しかし、そうしたものは正直カメラを向けることを躊躇させる生々しさがあり、敢えて撮影しようという人は少ないのではないか。それ程に、ここで行われた行為を強く意識させるものがある。

ホロコーストに関係した人々は異常な人ばかりだったわけではない。普通の人々が普通でない事を行う。俄に信じられないが、僅か70年前の出来事である。同じ過ちを繰り返す事のないよう、過去の出来事から多くの教訓を得る努力を惜しんでほしいと痛感する。

### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所



#### 【ワルシャワゲットー跡地】

ワルシャワ・ゲットーは、1939年9月ワルシャワがドイツ軍に占領されたのち、1940年10月から11月にかけて創設された。

しかし、1943年の4月から5月にかけて、ユダヤ人レジスタンスが武装蜂起した「ワルシャワ・ゲットー蜂起」による戦闘でゲットー内の施設は破壊され、ユダヤ人もその多くが死亡した。そのためゲットーは、その後解体された。

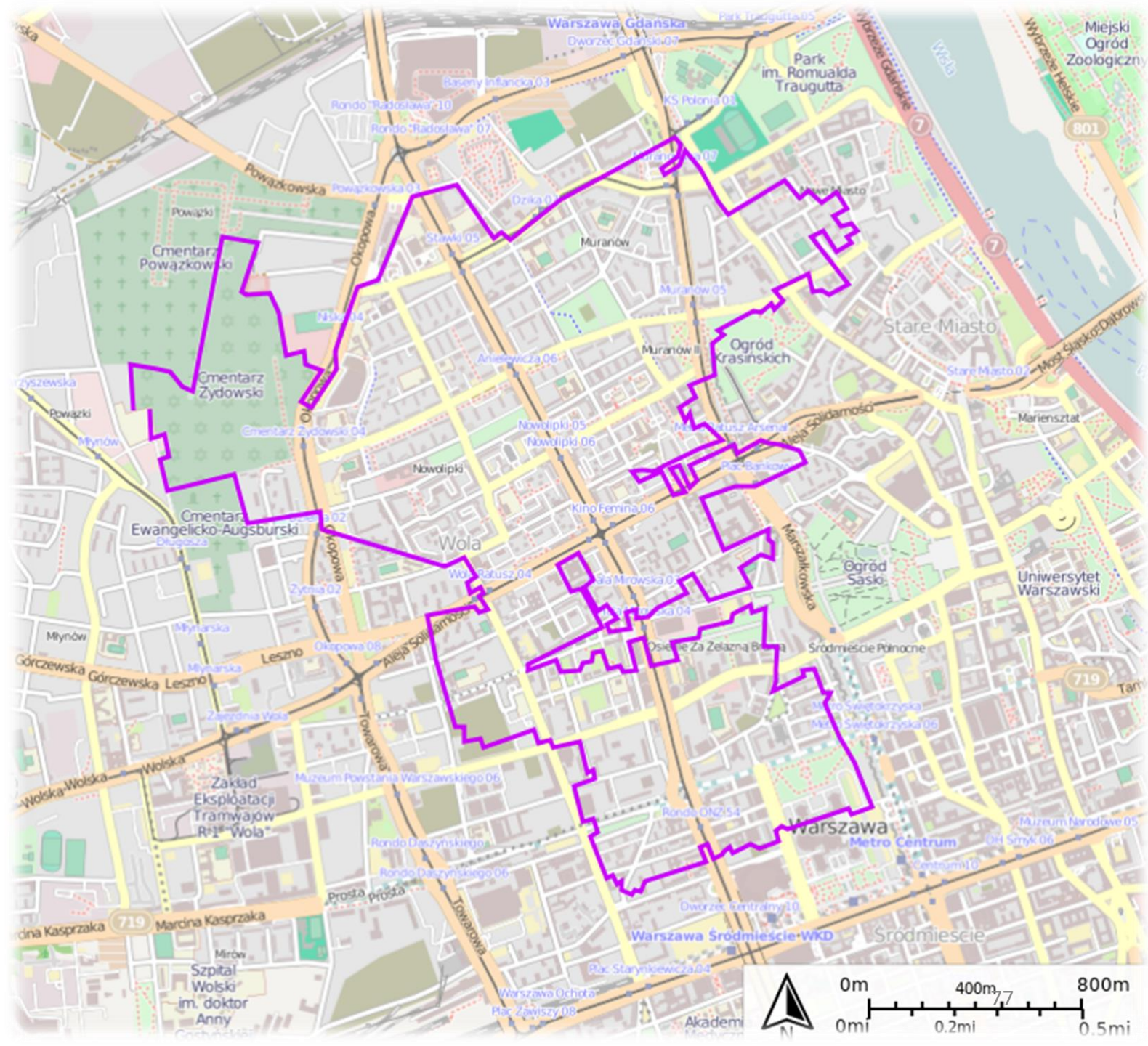


### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所

#### 【ワルシャワゲットー跡地】

ドイツ軍のポーランド侵攻によって、1939年9月ワルシャワはドイツ軍に占領された。その後、1940年10月から11月にかけてワルシャワ・ゲットーが創設された。同ゲットーの人口は最も多い時期で44.5万人。これはナチスが創設したゲットーの中でも最大であった。当然、ゲットーの環境は劣悪であり、1942年7月の移送作戦までに約8万3000人のユダヤ人が伝染病や飢餓によってゲットー内で亡くなったとのこと。

図はゲットーの範囲を示したもの。  
(参照 Open Street Map Data)



### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所

#### 【ワルシャワゲットー跡地】

ゲットー時代の様子を示す写真。

ゲットーを北部と南部に分ける「アーリア」区への通り。ゲットーの北部と南部を行き来できるのは回廊に架かったこの歩道橋だけだった。

道路の両側にある壁の向こう側がゲットー。道路を通行しているのは、ワルシャワ市民。ゲットー内のユダヤ人は、陸橋を渡ってゲットー内の行き来をしていた。収容者が外の世界を垣間見ることのできる僅かな瞬間であり、当時の社会情勢を象徴する写真。



Bundesarchiv, Bild 101I-270-0298-14



### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所



#### 【ワルシャワゲットー跡地】

ワルシャワ市内に残るゲットー時代の痕跡。

1943年ユダヤ人のレジスタンスによる武装蜂起「ワルシャワ・ゲットー蜂起」による戦闘でゲットー内の施設は破壊され、ゲットーは解体された。

写真は、幹線道路によって南北に分かれていたゲットーと当時から残る建物。

ゲットーを東西に貫く道路は非常に重要な道路だったために閉鎖することができず、道路の両脇に壁を建設し陸橋を渡したとのこと。



### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所



#### 【ワルシャワゲットー跡地】

ワルシャワ市内に残るゲットー時代の痕跡。

1943年ユダヤ人のレジスタンスによる武装蜂起「ワルシャワ・ゲットー蜂起」による戦闘でゲットー内の施設は破壊され、ゲットーは解体された。

写真は、幹線道路によって南北に分かれていたゲットーを結ぶ唯一の陸橋を支えていた支柱と当時から残る建物。

ゲットーを東西に貫く道路は非常に重要な道路だったために閉鎖することができず、道路の両脇に壁を建設し陸橋を渡したとのこと。

### iii) ワルシャワ・ゲッソー跡地、 ユダヤ人歴史研究所

#### 【ワルシャワゲッソー跡地】

ワルシャワ市内に残るゲッソー時代の  
の痕跡。

1943年ユダヤ人のレジスタンスによる  
武装蜂起「ワルシャワ・ゲッソー  
蜂起」による戦闘でゲッソー内の施  
設は破壊され、ゲッソーは解体され  
た。

写真は、幹線道路によって南北に分  
かれていたゲッソーを結ぶ唯一の陸  
橋を支えていた支柱。

ゲッソーを東西に貫く道路は非常に  
重要な道路だったために閉鎖するこ  
とができず、道路の両脇に壁を建設  
し陸橋を渡したとのこと。





iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、  
ユダヤ人歴史研究所

【ワルシャワゲットー跡地】

ワルシャワ市内に残るゲットー時代の  
痕跡。

写真は、幹線道路によって南北に分  
かれていたゲットーを結ぶ唯一の陸  
橋を支えていた支柱。

この陸橋の支柱は当時を象徴するも  
のとして今もモニュメントとして残  
されている。

当時の様子を知ることができるよう  
写真や説明書きなどがある。





iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、  
ユダヤ人歴史研究所

【ワルシャワゲットー跡地】

ワルシャワ市内に残るゲットー時代の痕跡。

写真は、幹線道路によって南北に分かれていたゲットーを結ぶ唯一の陸橋を支えていた支柱。

この陸橋の支柱は当時を象徴するものとして今もモニュメントとして残されている。

設置されたボックスを除くと当時の様子に移した写真を見ることができる。





### iii) ワルシャワ・ゲット一跡地、 ユダヤ人歴史研究所

#### 【ワルシャワゲット一跡地】

ワルシャワ市内に残るゲット一時代の痕跡。

写真は、幹線道路によって南北に分かれていたゲット一を結ぶ唯一の陸橋を支えていた支柱。

この陸橋の支柱は当時を象徴するものとして今もモニュメントとして残されている。

設置されたボックスを除くと当時の様子に移した写真を見ることができる。





### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所

#### 【ワルシャワゲットー跡地】

ワルシャワ市内に残るゲットー時代の痕跡。

写真は、幹線道路によって南北に分かれていたゲットーを結ぶ唯一の陸橋を支えていた支柱。

この陸橋の支柱は当時を象徴するものとして今もモニュメントとして残されている。

モニュメントに設置された、ゲットーに関する説明板。





### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所



#### 【ワルシャワゲットー跡地】

ワルシャワ市内に残るゲットー時代の痕跡。

当時の壁の設置状況が分かるよう歩道に示されている。



iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、  
ユダヤ人歴史研究所

【ワルシャワゲットー跡地】

ワルシャワ市内に残るゲットー時代  
の痕跡。

当時の壁の設置状況が分かるよう  
歩道に示されている。





### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、 ユダヤ人歴史研究所

#### 【ワルシャワゲットー跡地】

ワルシャワは、1943年に起こったユダヤ人によるゲットーの反乱（ワルシャワ・ゲットー蜂起）と1944年に起こったポーランド人によるワルシャワ蜂起などの影響によりナチスによって徹底して破壊された。そのため、その時代を生きのびた建造物は、ワルシャワ市民にとって非常に大切なものとなっているとのこと。



### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所

#### 【ワルシャワゲットー跡地】

ワルシャワは、1943年に起こったユダヤ人によるゲットーの反乱（ワルシャワ・ゲットー蜂起）と1944年に起こったポーランド人によるワルシャワ蜂起などの影響によりナチスによって徹底して破壊された。そのため、その時代を生きのびた建造物は、ワルシャワ市民にとって非常に大切なものとなっているとのこと。

奥の建物が当時のもの。両脇の建物は破壊されたが、政治的理由でこの建物は破壊されなかったとのこと。





### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所

#### 【ワルシャワゲットー跡地】

ワルシャワは、1943年に起こったユダヤ人によるゲットーの反乱（ワルシャワ・ゲットー蜂起）と1944年に起こったポーランド人によるワルシャワ蜂起などの影響によりナチスによって徹底して破壊された。

両脇の建物は破壊されたが、政治的理由でこの建物は破壊されなかったとのこと。

当時は隣接した建物があったので窓は無かったが、現在は壁だけでは味気ないとのことなので飾り窓がたくさん付けられている。



### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所

#### 【ワルシャワゲットー跡地】

ワルシャワは、1943年に起こったユダヤ人によるゲットーの反乱（ワルシャワ・ゲットー蜂起）と1944年に起こったポーランド人によるワルシャワ蜂起などの影響によりナチスによって徹底して破壊された。

そのため、その時代を生きのびた建造物は、ワルシャワ市民にとって非常に大切なものとなっているとのこと。





### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所

#### 【ワルシャワ・ゲットー跡地】

ウムシュラークプラッツ  
(Umschlagplatz /集荷場) の跡地。

1942年7月に開始された移送作戦において利用された鉄道駅の跡地。この作戦は、ゲットー内のユダヤ人をトレブリンカ強制収容所に移送するために行われたもの。



### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所



#### 【ワルシャワ・ゲットー跡地】

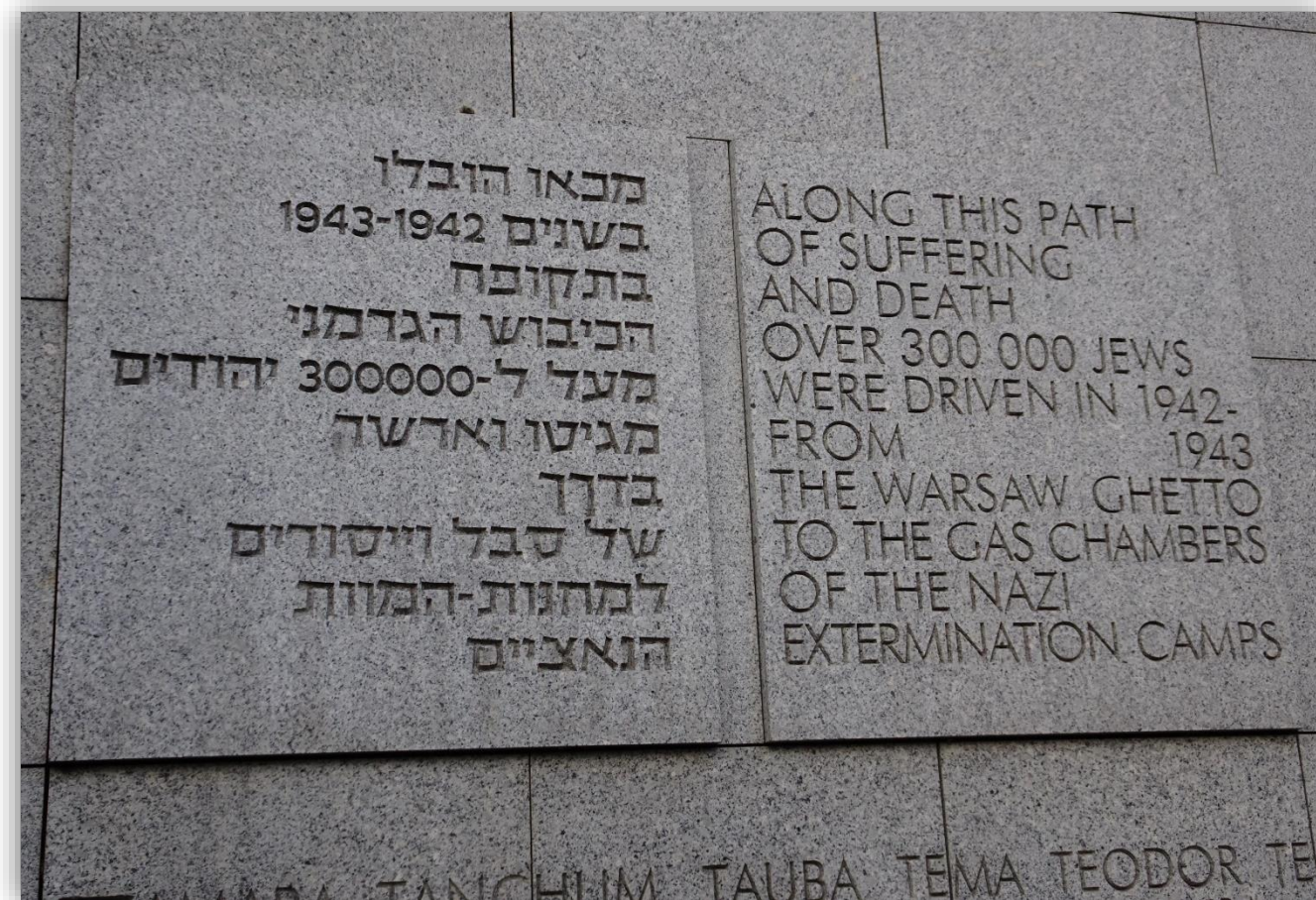
ウムシュラークプラッツ  
(Umschlagplatz /集荷場) の跡地。

1942年7月に開始された移送作戦において利用された鉄道駅の跡地。この作戦は、ゲットー内のユダヤ人をトレブリンカ強制収容所に移送するために行われたもの。

現在は1988年に建てられた、扉の開いた貨車に似せた石造りの記念碑が建てられている。



### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所



#### 【ワルシャワ・ゲットー跡地】

ウムシュラークプラッツ  
(Umschlagplatz /集荷場) の跡地。

この駅から僅か数ヶ月の内に約30万人ものユダヤ人が絶滅収容所のガス室へ送られていった。

モニュメントの壁に様々な言語によりここで起こったことを示している。



### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所

#### 【ワルシャワ・ゲットー跡地】

ウムシュラークプラッツ  
(Umschlagplatz / 集荷場) の跡地。

この駅から僅か数ヶ月の内に約30万人ものユダヤ人が絶滅収容所のガス室へ送られていった。

モニュメントの壁に様々な言語によりここで起こったことを示している。



### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所

#### 【ワルシャワ・ゲットー跡地】

ウムシュラークプラッツ  
(Umschlagplatz /集荷場) の跡地。

この駅から僅か数ヶ月の内に約30万人ものユダヤ人が絶滅収容所のガス室へ送られていった。

モニュメントの壁に様々な言語によりここで起こったことを示している。





### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所

#### 【ユダヤ人歴史研究所】

エマニュエル・リングルブラム・ユダヤ人歴史研究所

かつてシナゴグとして使われていた建物跡に建てられている。ポーランドにおけるユダヤ人の歴史や第2次大戦中のゲットー内での生活、またユダヤ人の芸術家やその作品の収集など、ユダヤの歴史と文化について幅広く研究するとともに展示を行っている。





### iii) ワルシャワ・ゲット一跡地、ユダヤ人歴史研究所



#### 【ユダヤ人歴史研究所】

かつてシナゴークとして使われていた頃の写真と柱の一部。

大戦中に破壊されてしまったとのこと。

シナゴークは、ユダヤ教の会堂。キリスト教の教会とはやや役割が違う、儀式も行ったが集会場や公民館の様な機能があった。

iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、  
ユダヤ人歴史研究所

【ユダヤ人歴史研究所】

かつてシナゴークとして使われて  
いた頃の写真。

シナゴークは、ユダヤ教の会堂。  
キリスト教の教会とはやや役割が  
違う、儀式も行ったが集会場や公  
民館の様な機能があった。



Fragmenty kolumn z wnętrza Wielkiej Synagogi na Tłomackim.  
1876-1878

Fragments of Columns from the Interior of the Great Synagogue of Tłomackie Street,  
1876-1878





iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、  
ユダヤ人歴史研究所

【ユダヤ人歴史研究所】

かつてシナゴグとして使われていた頃の床の一部。

破壊を免れた床の一部が現在も使われている。シミのようになってるのは靴で床が擦れた跡。

シナゴグには多くの人が集まり、ユダヤ人同士によるものはもちろん、ユダヤ人と非ユダヤ人による情報交換や商談などもシナゴグで行われていた。

かつてはシナゴグだけが、ユダヤ人と非ユダヤ人とを繋ぐ場所であったとのこと。





### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、 ユダヤ人歴史研究所

#### 【ユダヤ人歴史研究所】

ポーランドは、13世紀以降ユダヤ人に対し非常に寛容な政策を採っており、第2次世界大戦前には300万人を超えるユダヤの人々が住んでいた。

写真はポーランドの国境の変遷を示したもののだが、ヨーロッパの他国と比べ圧倒的に寛容であったポーランドの趨勢が、ユダヤの人々の生活や運命にも大きな影響を与えた。



### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所 感想

ワルシャワは、1943年にゲットー内のユダヤ人が決起した「ワルシャワ・ゲットー蜂起」、1944年にポーランド人による武装蜂起「ワルシャワ蜂起」と立て続けに戦場となったうえ、ナチス・ドイツによる懲罰的な攻撃もあり徹底的に破壊された。そのため、第2次世界大戦以前のものは多くが失われてしまっている。

しかし、街のあちらこちらに、ここで起こったこと行われたことを記憶に留めておこうという市民の努力が垣間見える。

また、中世以降、多くのユダヤ人が住んでいたこともあり、ユダヤ人の文化や歴史を深く理解し、相互理解を図ろうとしていることも感じられる。

ワルシャワ・ゲットーは、ナチス・ドイツが設置したゲットーの中でも最大規模のものであった。クラフクと同様、ワルシャワにも多くのユダヤ人が住んでおりその数は、第2次世界大戦前には約375,000人とワルシャワの人口の30%を占めるまでになっていた。



### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所 感想

ワルシャワ・ゲットーには、ワルシャワ周辺からもユダヤ人が集められ収容された。元来のユダヤ人居留区の3分の2の地域に最大で445,000人ものユダヤ人が押し込められることとなった。生活環境が劣悪なものになったことは言うまでも無いが、意外にもゲットーの中ではユダヤ人評議会の下に一定の自治権が認められていた。

また、ユダヤ人の隔離にあたっては、ナチス・ドイツの暴走だと言い切ることもできない。そこには、少なくないワルシャワ市民の同意もあったようだ。ユダヤ人は、その宗教や文化により独特のコミュニティーを形成しており、時代を少し遡れば言葉も慣習も全く違った。同じ街で暮らしながらもやはり異質な存在であったようだ。また、ペストなどの伝染病をもたらすのはユダヤ人であると中世から信じられており、実際の当時チフスがユダヤ人居住区で流行していた事なども、ユダヤ人を完全に隔離することに対する政策を後押しすることに繋がった。



### iii) ワルシャワ・ゲットー跡地、ユダヤ人歴史研究所 感想

ユダヤ人歴史研究所では、ゲットー内での生活を記録した映像や写真も、見ることができた。決して良好とは言えない環境の中でも卑屈にならず、生き抜こうとする人々の力強い姿があった。その日の食べ物にも困るよ、うな生活の中で文化的な楽しみを作り出し、多くの人々が助け合って生きている姿には、極限状態においても人は人らしくいられるのだというところを見せつけられ、アウシュビッツとはまた違う人の一面を知り考えさせられた。

ユダヤ人は、民族の歴史的経緯から土地を持つことを許されず、商業や工業また金融などで生計を立ててきた。もし、土地を持つことが許され農作物を作るための高度な技術があれば、ゲットー内での生活ももつと違ったものになったかもしれないという仮定には考えさせられるものがあった。

また、研究所では、ユダヤ人芸術家の作品も収集している。ユダヤ人というだけで正当な評価を受けることができず、多くの芸術家が挫折したそう。そうした作品に光を与えることができるよう、ここで作品の収集と作者に関する研究も行っているそう。

## iv) ユダヤ人歴史博物館



### 【ユダヤ人歴史博物館】

ワルシャワ・ゲットー蜂起の英雄記念碑。

博物館の前にある広場に設置されている記念碑。1943年、ユダヤ人によって起きたワルシャワ・ゲットー蜂起の記念碑。

死者の日が近かったためか、修学旅行のようなものなのか分からないが、学生がセレモニーを行っていた。

広島や長崎で学生が行うセレモニーのような感じであり、こうした感覚は世界共通なのだとあらためて思った。

## iv) ユダヤ人歴史博物館



### 【ユダヤ人歴史博物館】

ワルシャワ・ゲットーの英雄記念碑。

博物館の前にある広場に設置されている記念碑。1943年、ユダヤ人によって起きたワルシャワ・ゲットー蜂起の記念碑。

死者の日が近かったためか、修学旅行のようなものなのか分からないが、学生がセレモニーを行っていた。

広島や長崎で学生が行うセレモニーのような感じであり、こうした感覚は世界共通なのだとあらためて思った。



## iv) ユダヤ人歴史博物館

### 【ユダヤ人歴史博物館】

2013年4月にオープンした博物館。

ここではポーランドでのユダヤ人の歴史が、10世紀から現代まで8つのテーマに分けられて紹介されている。

タッチパネルなどのマルチメディアが多用され、ただ見るだけではなく、自分達の間で体験を通じユダヤの歴史を学ぶことができるとのこと。

しっかり見ると一日以上かかるそうだが、残念ながら今回は約2時間のダイジェスト版。



## iv) ユダヤ人歴史博物館



### 【ユダヤ人歴史博物館】

2013年4月にオープンした博物館。新しいということもあるのかも知れないが、大人や高校生から小学校低学年くらいの子どもまで様々な年代の多くの入館者がいた。

まだ、開館まで僅かに時間があつたため、エントランスロビーは非常に賑やかだった。



## iv) ユダヤ人歴史博物館

### 【ユダヤ人歴史博物館】

博物館のエントランスロビーの特徴的な構造は、旧約聖書の出エジプト記をモチーフにしているとのこと。

割れた海を表現しているそうだが、改めてユダヤ人の受難の歴史の長さを実感する。

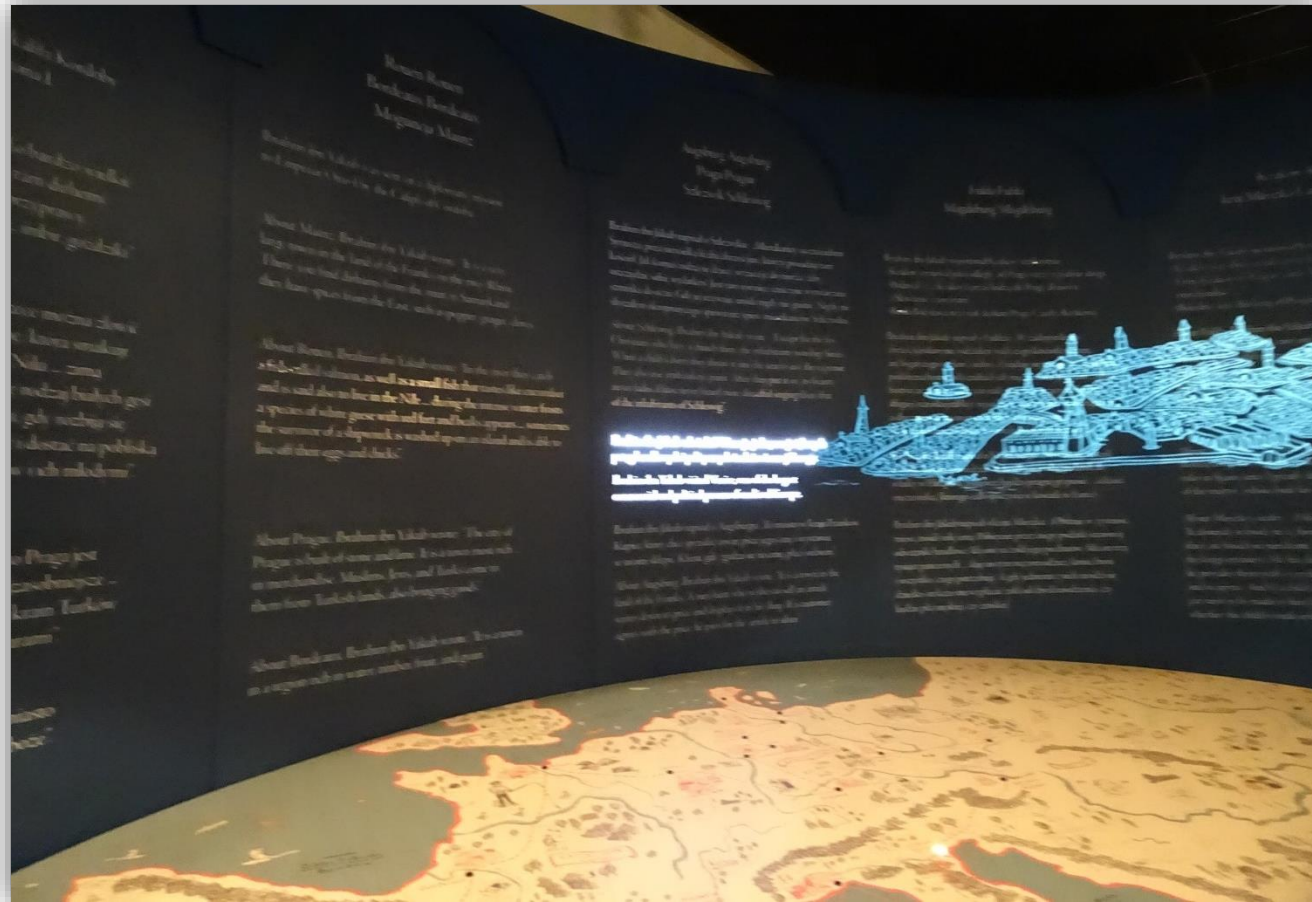




## iv) ユダヤ人歴史博物館

### 【ユダヤ人歴史博物館】

ヨーロッパにおけるユダヤ民族の成り立ちと生活習慣や文化の変遷などを説明しながら、ヨーロッパ各国やポーランドとの関係性を説明している。



## iv) ユダヤ人歴史博物館

### 【ユダヤ人歴史博物館】

ヨーロッパにおけるユダヤ民族の成り立ちと生活習慣や文化の変遷などを説明しながら、ヨーロッパ各国やポーランドとの関係性を説明している。

説明文は読めないが、視覚で直感的に分かる様な展示になっているためイメージは掴みやすい。

ポーランド人やユダヤ人関係者、また専門家や大人だけでなく、多くの人たちに理解を深めてもらいたいという想いが伝わる。





## iv) ユダヤ人歴史博物館

### 【ユダヤ人歴史博物館】

ヨーロッパにおけるユダヤ民族の成り立ちと生活習慣や文化の変遷などを説明しながら、ヨーロッパ各国やポーランドとの関係性を説明している。

説明文は読めないが、視覚で直感的に分かる様な展示になっているためイメージは掴みやすい。

ポーランド人やユダヤ人関係者、また専門家や大人だけでなく、多くの人たちに理解を深めてもらいたいという想いが伝わる。



## iv) ユダヤ人歴史博物館

### 【ユダヤ人歴史博物館】

ヨーロッパにおけるユダヤ民族の成り立ちと生活習慣や文化の変遷などを説明しながら、ヨーロッパ各国やポーランドとの関係性を説明している。

説明文は読めないが、視覚で直感的に分かる様な展示になっているためイメージは掴みやすい。

ポーランド人やユダヤ人関係者、また専門家や大人だけでなく、多くの人たちに理解を深めてもらいたいという想いが伝わる。





## iv) ユダヤ人歴史博物館

### 【ユダヤ人歴史博物館】

ヨーロッパにおけるユダヤ民族の成り立ちと生活習慣や文化の変遷などを説明しながら、ヨーロッパ各国やポーランドとの関係性を説明している。

説明文は読めないが、視覚で直感的に分かる様な展示になっているためイメージは掴みやすい。

ポーランド人やユダヤ人関係者、また専門家や大人だけでなく、多くの人たちに理解を深めてもらいたいという想いが伝わる。



## iv) ユダヤ人歴史博物館

### 【ユダヤ人歴史博物館】

ヨーロッパにおけるユダヤ民族の成り立ちと生活習慣や文化の変遷などを説明しながら、ヨーロッパ各国やポーランドとの関係性を説明している。

説明文は読めないが、視覚で直感的に分かる様な展示になっているためイメージは掴みやすい。

ポーランド人やユダヤ人関係者、また専門家や大人だけでなく、多くの人たちに理解を深めてもらいたいという想いが伝わる。







## iv) ユダヤ人歴史博物館

【ユダヤ人歴史博物館】

17世紀のシナゴークの再現。

この博物館の見所の一つとのこと。



#### iv) ユダヤ人歴史博物館

##### 【ユダヤ人歴史博物館】

17世紀のシナゴグの再現。

この博物館の見所の一つとのこと。





#### iv) ユダヤ人歴史博物館

##### 【ユダヤ人歴史博物館】

17世紀のシナゴグの再現。

この博物館の見所の一つとのこと。





## iv) ユダヤ人歴史博物館



### 【ユダヤ人歴史博物館】

近・現代の資料も充実している。単に迫害やホロコーストなどの資料を展示説明しているのではなく、当時のユダヤ人社会における文化や生活を丁寧に説明しながら、それらがヨーロッパの非ユダヤ社会においてどの様に認知されていたのか説明を試みている。



## iv) ユダヤ人歴史博物館



### 【ユダヤ人歴史博物館】

近・現代の資料も充実している。単に迫害やホロコーストなどの資料を展示説明しているのではなく、当時のユダヤ人社会における文化や生活を丁寧に説明しながら、それらがヨーロッパの非ユダヤ社会においてどの様に認知されていたのか説明を試みている。

## iv) ユダヤ人歴史博物館

### 【ユダヤ人歴史博物館】

近・現代の資料も充実している。単に迫害やホロコーストなどの資料を展示説明しているのではなく、当時のユダヤ人社会における文化や生活を丁寧に説明しながら、それらがヨーロッパの非ユダヤ社会においてどの様に認知されていたのか説明を試みている。

強制収容所やホロコースト、ゲットー内での生活についても幅広く説明されている。





## iv) ユダヤ人歴史博物館

### 【ユダヤ人歴史博物館】

近・現代の資料も充実している。単に迫害やホロコーストなどの資料を展示説明しているのではなく、当時のユダヤ人社会における文化や生活を丁寧に説明しながら、それらがヨーロッパの非ユダヤ社会においてどの様に認知されていたのか説明を試みている。

強制収容所やホロコースト、ゲットー内での生活についても幅広く説明されている。



## iv) ユダヤ人歴史博物館

### 【ユダヤ人歴史博物館】

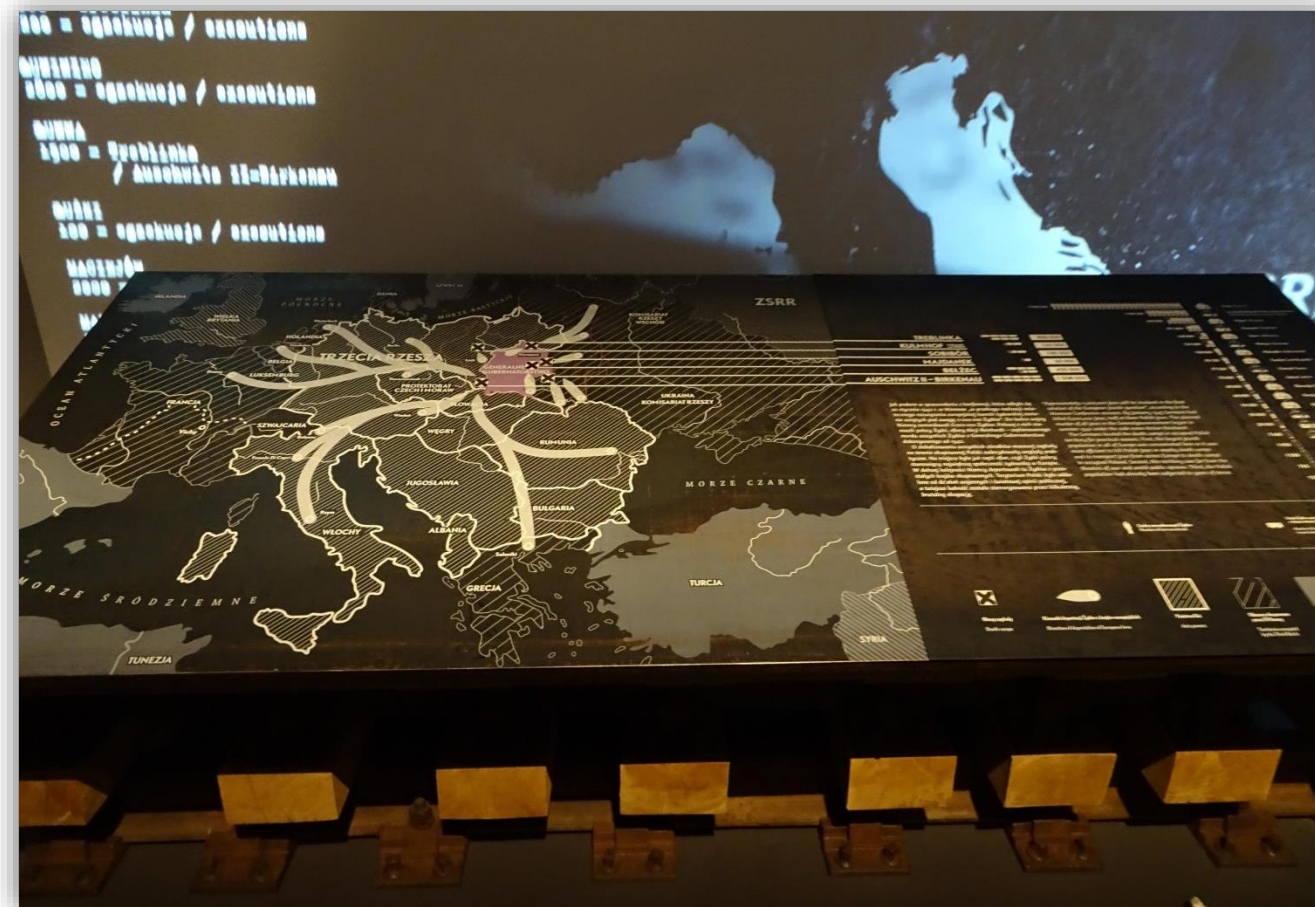
近・現代の資料も充実している。単に迫害やホロコーストなどの資料を展示説明しているのではなく、当時のユダヤ人社会における文化や生活を丁寧に説明しながら、それらがヨーロッパの非ユダヤ社会においてどの様に認知されていたのか説明を試みている。

強制収容所やホロコースト、ゲットー内での生活についても幅広く説明されている。





## iv) ユダヤ人歴史博物館



### 【ユダヤ人歴史博物館】

近・現代の資料も充実している。単に迫害やホロコーストなどの資料を展示説明しているのではなく、当時のユダヤ人社会における文化や生活を丁寧に説明しながら、それらがヨーロッパの非ユダヤ社会においてどの様に認知されていたのか説明を試みている。

強制収容所やホロコースト、ゲットー内での生活についても幅広く説明されている。

## iv) ユダヤ人歴史博物館 感想

2013年4月ゲットー跡地にオープンした、まだ新しい博物館。当日は、  
どういう理由か子供や学生が多く訪れていた。博物館の内容は大変充実  
しているようで、全てを見ようと思うと丸一日は確実にかかるそう  
だ。折角ポーランドまで来たが、午後からリトアニアへ移動しなくては  
ならないため、残念ながら今回はダイジェスト版で約2時間の見学とな  
った。

第2次世界大戦前ポーランドには、約330万人のユダヤ人がおり、その10  
分の1がワルシャワに住んでいた。この330万人という数は当時ニュー  
ヨークに次いで世界で2番目となるものだった。だからこそ、その後  
ヨーロッパ各地からユダヤ人やマイノリティーの人々がポーランドへ送  
り込まれ悲劇の舞台となった。しかし、なぜポーランドには、そもそも  
それだけ多くのユダヤ人が住むことになったのか。そうしたことも、展  
示を見ていくと理解することができる。もちろん通訳を挟んでスタッ  
フが説明してくれるのだが、視覚的に理解できる様展示が工夫してあ  
るようだった。様々な年代や国の人にも理解を深めてもらいたいとい  
う配慮なのだろう。



## iv) ユダヤ人歴史博物館 感想

ユダヤ人は旧約聖書の時代から不遇の民としてヨーロッパ各地を彷徨いながらも他の文化や民族と同化することもなく、独自の宗教や文化を伝え続けた。そのため、ヨーロッパ各地で異質な存在として迫害を受け続けることになった。

しかし、ユダヤ人の持つ経済や金融に関する知識や力は大きな影響力があり、それを利用するため13世紀以降ポーランド王国ではユダヤ人に対し他のヨーロッパ諸国とは一線を画す寛容な政策を採ることとなった。そのため、各地で迫害を受けていたユダヤ人の多くがポーランドへ移住してくる事になったようだ。

ただし、いくら寛容といってもユダヤ人の居留区は限られた地域であった。ユダヤの人々も自分達だけの文化を頑なに守ろうとしてきた。そうした姿は秘密主義に映ただろうし、誤解が生じる原因にもなっただろう。実際、市民の偏見がなかったわけではない。そうしたわだかまりや相互理解の不足が、大戦中の悲劇に繋がったことは想像に難くない。

## iv) ユダヤ人歴史博物館 感想

300万人を超えるユダヤ人がいたポーランドでさえ、そうであるならば他のヨーロッパ諸国においては言うまでも無い。そうした歴史的、文化的背景があったからこそ、強制収容やホロコーストが各地で実行に移されるような事態に繋がったのだろう。

ユダヤ人の放浪の歴史はともかく、その中で築き上げられてきた文化については今まで知る機会がなかったので非常に関心が向いた。おそらく今日ここにいる僕たち以外の訪問者も知らないことが多々あるのではないか。知らないことは、恐怖や誤解に繋がる。こうした施設をゲットーの跡地に整備したのにはそれなりの意味があるのだろう。

また、館内で子供の集団と何度かすれ違ったが、クイズの課題に答えるためか、館内の展示を楽しそうにあちこち調べて廻っているようだった。重いテーマの展示もあるが、興味の入り口としては良い試みだと感じた。



## 4. 第2次世界大戦以前のヨーロッパにおける ユダヤ民族の位置づけと、強制収容所・ホロコースト

まとめ

## 4. 第2次世界大戦以前のヨーロッパにおける ユダヤ民族の位置づけと、強制収容所・ホロコースト

ユダヤ人とは、ユダヤ教を信仰する人々の事であったが、時代が下るにつれてユダヤ人を親に持つ人々もユダヤ人とされるようになった。

ユダヤ民族は、旧約聖書の時代以前から不遇の民としてヨーロッパ中を彷徨ってきた。その間、他の文化や宗教、民族などと同化することはなく独自の宗教的・文化的集団を形成してきた。

また、ユダヤ教は、キリスト教からはその成り立ちの経緯(キリストを処刑したのは、ユダヤの王とされる)や教義(キリスト教において金融などの仕事は最も卑しいものとされていた)の違いなどから蔑視の対象となっていた。

加えて独特の生活習慣や文化などは、非ユダヤの人々に理解されなかった。これは、ユダヤのコミュニティーが決して開放的なものでなかったことも影響していると考えられるが、そうした無理解からくる不安や恐怖などを媒体に伝染病などとの関連を疑う風説が定着し、ユダヤ民族が他民族よりも、いかがわしい、卑しい存在であるという固定概念がヨーロッパ全体に定着していったようだ。



## 4. 第2次世界大戦以前のヨーロッパにおける ユダヤ民族の位置づけと、強制収容所・ホロコースト

ユダヤ人に対する蔑視的な心情は、千年以上かけてヨーロッパで醸成されたものであるためそれを払拭することは、簡単な事ではないと推測される。

ナチス・ドイツが、ユダヤ人やマイノリティーに対する強制収容やホロコーストをヨーロッパ各地で実行できたことも、ナチスや戦時下という特殊性のみで説明できるものではなく、ヨーロッパ各地に根付く人種差別的な思想が根底にあったと考えられる。

また、強制収容やホロコーストは、ナチスの専売特許のように言われるが、東ヨーロッパでは旧ソ連においても規模の差こそあれ、同様の事態が発生した。

ナチスやソ連に限定するまでもなく、戦時下かつ混迷する戦況という特殊な状況のなかで、民衆をコントロールするためのスケープゴートとしてユダヤ人や社会的マイノリティーの人々が利用された一面もあるのではないかと感じる。

## 5. 杉原千畝氏とその行動に関する評価





# 5. 杉原千畝氏とその行動に関する評価

## 【目的】

杉原千畝氏の行動が海外、取り分け舞台となった東ヨーロッパに於いてどの様に認知、評価を得ているのか調査を行う。

## 【視察先】

〈リトアニア（ヴィルニス、カウナス）〉

- a) ヴィルニス市内、在リトアニア大使館
- b) 第9要塞博物館
- c) 杉原記念館（旧カウナス日本領事館跡）

# a) ヴィルニス市内、在リトアニア大使館



## 【ヴィルニス市内】

リトアニアの現在の首都。

杉原氏がリトアニアに赴任した当時は、カウナスが首都であった。そのため領事館もカウナスにあったのでヴィルニスには、直接の関わりがないと思うが、市内のあちこち「sugiharos/杉原」の名を冠した道路や住所がある。

杉原氏に親しみを感じてくれていることを実感する。



# a) ヴィルニス市内、在リトアニア大使館



【ヴィルニス市内】

リトアニアの現在の首都。

杉原氏がリトアニアに赴任した  
当時は、カウナスが首都であっ  
た。そのため領事館もカウナス  
にあったのでヴィルニスには、  
直接の関わりがないと思うが、  
市内のあちこち「sugiharos/杉  
原」の名を冠した道路や住所が  
ある。

杉原氏に親しみを感じてくれて  
いることを実感する。

床屋さんの敷地内。当然、杉原  
氏との直接の関わりは無いとの  
こと。

## a) ヴィルニス市内、 在リトアニア大使館

【ヴィルニス市内】

リトアニアの現在の首都。

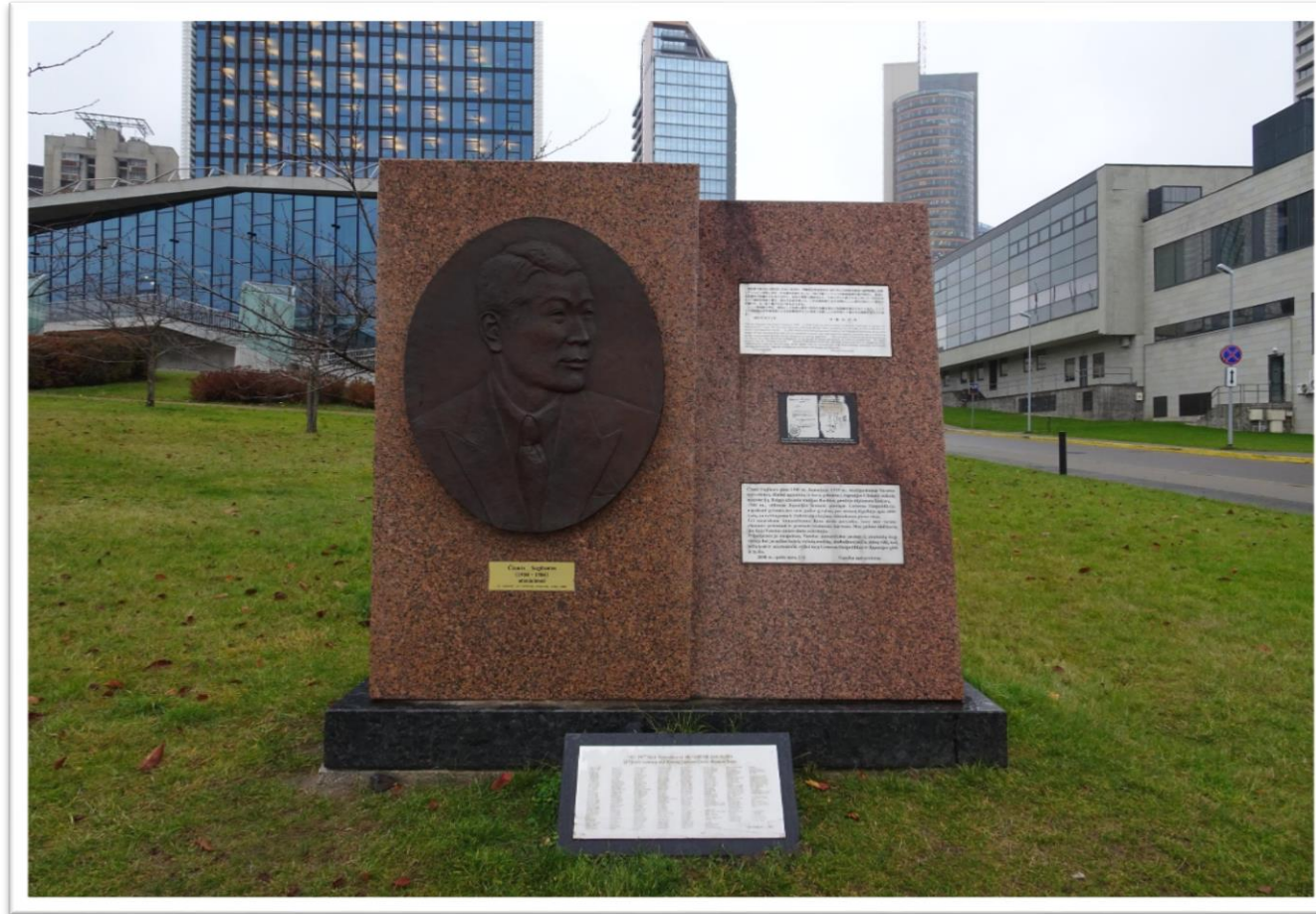
杉原氏がリトアニアに赴任した当時は、カウナスが首都であった。そのため領事館もカウナスにあったのでヴィルニスには、直接の関わりがないと思うが、市内のあちこち「sugiharos/杉原」の名を冠した道路や住所がある。

杉原氏に親しみを感じてくれていることを実感する。





# a) ヴィルニス市内、在リトアニア大使館



## 【ヴィルニス市内】

街の中心を流れるネリス川沿いにある、通称杉原桜公園。

モニュメントは杉原氏の生誕100周年を記念して、出身校である早稲田大学が建てたもので、公園内にある桜もそのとき植樹されたものとのこと。

当日は、時間も早く天気もあまり良くなかったため人はいなかったが、桜が咲く5月頃には多くの人を訪れるとのこと。

杉原氏を通じ多くの人々が日本に親しみを感じてくれているのならば嬉しいと思う。



# a) ヴィルニス市内、 在リトアニア大使館

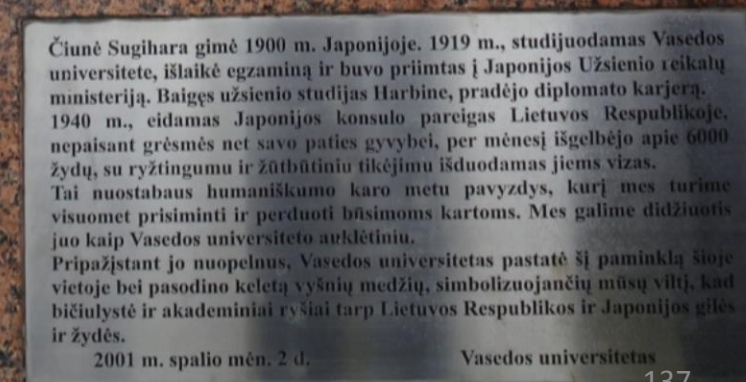
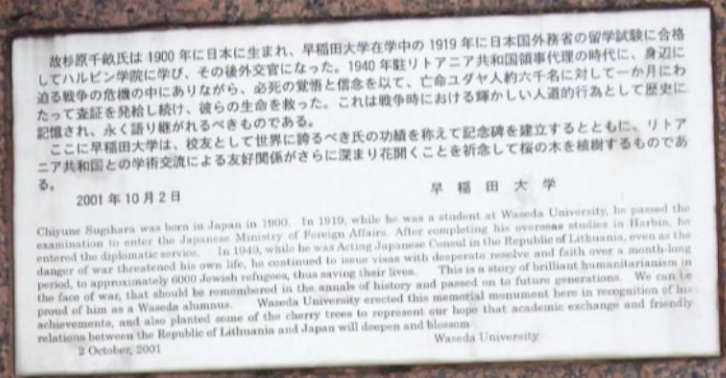
## 【ヴィルニス市内】

街の中心を流れるネリス川沿いにある、通称杉原桜公園。

モニュメントは杉原氏の生誕100周年を記念して、出身校である早稲田大学が建てたもので、公園内にある桜もそのとき植樹されたものとのこと。

当日は、時間も早く天気もあまり良くなかったため人はいなかったが、桜が咲く5月頃には多くの人を訪れるとのこと。

杉原氏を通じ多くの人々が日本に親しみを感じてくれているのならば嬉しいと思う。





# a) ヴィルニス市内、 在リトアニア大使館

## 【ヴィルニス市内】

街の中心を流れるネリス川沿いにある、  
通称杉原桜公園。

モニュメントは杉原氏の生誕100周年  
を記念して、出身校である早稲田大学  
が建てたもので、公園内にある桜もそ  
のとき植樹されたものとのこと。

当日は、時間も早く天気もあまり良く  
なかったため人はいなかったが、桜が  
咲く5月頃には多くの人を訪れるとの  
こと。

杉原氏を通じ多くの人々が日本に親しみ  
を感じてくれているのならば嬉しいと  
思う。



OCTOBER 7, 2009



## a) ヴィルニス市内、 在リトアニア大使館

### 【ヴィルニス市内】

街の中心を流れるネリス川沿いにある、  
通称杉原桜公園。

モニュメントは杉原氏の生誕100周年  
を記念して、出身校である早稲田大学  
が建てたもので、公園内にある桜もそ  
のとき植樹されたものとのこと。

当日は、時間も早く天気もあまり良く  
なかったため人はいなかったが、桜が  
咲く5月頃には多くの人を訪れるとの  
こと。

杉原氏を通じ多くの人々が日本に親しみ  
を感じてくれているのならば嬉しいと  
思う。





# a) ヴィルニス市内、在リトアニア大使館



## 【ヴィルニス市内】

街の中心を流れるネリス川沿いにある、通称杉原桜公園。

モニュメントは杉原氏の生誕100周年を記念して、出身校である早稲田大学が建てたもので、公園内にある桜もそのとき植樹されたものとのこと。

当日は、時間も早く天気もあまり良くなかったため人はいなかったが、桜が咲く5月頃には多くの人を訪れるとのこと。

杉原氏を通じ多くの人々が日本に親しみを感じてくれているのならば嬉しいと思う。

## a) ヴィルニス市内、 在リトアニア大使館

### 【ヴィルニス市内】

街の中心を流れるネリス川沿いにある、通称杉原桜公園。

杉原氏のモニュメントの側に、「広島の被爆敷石」が設置されていた。

こうしたものや活動があることを国内では、あまり見聞きしないので新鮮な驚きがあった。





# a) ヴィルニス市内、 在リトアニア大使館

## 【ヴィルニス市内】

街の中心を流れるネリス川沿いにある、通称杉原桜公園。

杉原氏のモニュメントの側に、「広島の被爆敷石」が設置されていた。

こうしたものや活動があることを国内では、あまり見聞きしないので新鮮な驚きがあった。





## a) ヴィルニス市内、 在リトアニア大使館

### 【ヴィルニス市内】

杉原桜公園とは別場所にあるモニュメント。

月光をイメージした、杉原氏の功績を称えるモニュメント。写真は説明板。

日本人と現地の彫刻家が造ったとのこと。





# a) ヴィルニス市内、在 リトアニア大使館

【ヴィルニス市内】

杉原桜公園とは別場所にあるモニュメント。

月光をイメージした、杉原氏の功績を称えるモニュメント。写真の奥がモニュメント。

日本人と現地の彫刻家が造ったとのこと。



## a) ヴィルニス市内、在リトアニア大使館



### 【在リトアニア日本国大使館】

日本大使館に伺い、重枝特命全権大使と面談。その後、山中参事官からリトアニアと日本の関係、またリトアニアにおける杉原氏の顕彰活動について説明を受けた。

大使館の受付に杉原氏の出身地である八百津町のゆるキャラ「やおっち」が置いてあったのが好印象だった。



## a) ヴィルニス市内、在リトアニア大使館



### 【在リトアニア日本国大使館】

重枝大使は、この後一時帰国するとのことで忙しいなか時間を作って頂いた。

リトアニアにおける杉原氏の評価は非常に高く、リトアニア政府や市行政当局も杉原氏の縁を通じて日本や岐阜県と親密な関係を構築したいと考えているとのことだった。

県議会でも議員間交流を積極的に検討すべきだと意見を頂いた。

## a) ヴィルニス市内、 在リトアニア大使館

### 【在リトアニア日本国大使館】

大使との面談後、山中参事官からリトアニアと日本の関係、またリトアニアにおける杉原氏の顕彰活動について説明を受けた。

在住する日本人がとても少ないにも関わらず、リトアニアの人々が、日本に大変親しみを感じてくれている様子が伝わった。

また杉原氏のごことは、小中学校の教材として採り上げられているとのこと。





## a) ヴィルニス市内、在リトアニア大使館

ヴィルニス市内には、杉原桜公園をはじめ市内各所に杉原さんの名前を見ることができた。大戦中の首都はカウナスであり日本の領事館もカウナスにあったのだから少し変な気もする。しかし、わざわざ嫌いな人の名前をあちこちに書いたりはないので、それだけ、リトアニアの人々が杉原さんに親しみを持ってくれている証拠だろう。

実際、大使館で重枝大使からもリトアニアの人々が杉原さんを非常に尊敬し親しみを持ってくれていることをお聴きした。小学校や中学校では授業の題材として扱われたり、研究発表のテーマとして生徒が取り組んでいるそう。

通訳の方が言うには、ヴィルニスには大使館の職員や家族を含めても数名の日本人しかいないそう。決して日本が身近なわけではないだろうが、杉原さんを通じ日本に親しみを感じてくれるなら素晴らしい事だと思ふ。リトアニアの人が抱いてくれている親しみに応えることができるよう、杉原さんという共通項で県や議会も積極的に交流活動に取り組むべきと感じた。

## b) 第9要塞博物館



### 【第9要塞博物館】

ヴィルニスからカウナスに移動。

カウナスは、リトアニア第2の都市で、ソビエト連邦合併以前の首都。杉原氏が赴任した領事館もカウナスにあった。

写真は、第9要塞博物館の敷地内にある強制収容で亡くなった人々を悼む強大なモニュメント。



## b) 第9要塞博物館

### 【第9要塞博物館】

写真は、第9要塞博物館の敷地内にある強制収容で亡くなった人々を悼む強大なモニュメント。

カウナスには19世紀に帝政ロシアが建造した要塞が12箇所あったが、現在そうした要塞は破壊され、この第9番要塞が唯一現存する要塞となった。

リトアニアを占領したナチス・ドイツはリトアニアの各地から5万人にも及ぶユダヤ人をこうした要塞に一時的に収容し、強制収容所などに送り出したとのこと。



## b) 第9要塞博物館

### 【第9要塞博物館】

第二次世界大戦の最中、リトアニアを占領したナチス・ドイツはリトアニアの各地から5万人にも及ぶユダヤ人をこれらの要塞に収容し、その多くを強制収容所に送り虐殺したと言われる。そうした犠牲者の中にはナチス・ドイツだけでなく、旧ソ連による犠牲者も含まれていたとのこと。

この第9要塞博物館では、そうした犠牲者の遺品や写真などを集めた資料館となっているとのこと。





## b) 第9要塞博物館



### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

施設内の設備や当時の資料など  
を見ることができる。

写真は、収容者と外部の人間が  
面談するための部屋。

ナチス・ドイツは、これらの施設を要塞ではなく、仮の収容施設として利用した。もともと要塞として建設されているので、捕虜などを留置する施設など、も  
あり、一時的にせよ多くの人を収容するには好都合だったようだ。

## b) 第9要塞博物館

### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

施設内の設備や当時の資料などを見ることができる。

写真は、収容者と外部の人間が面談するための部屋。

ナチス・ドイツは、これらの施設を要塞ではなく、仮の収容施設として利用した。もともと要塞として建設されているので、捕虜などを留置する施設などもあり、一時的にせよ多くの人を収容するには好都合だったようだ。





## b) 第9要塞博物館

### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

施設内の設備や当時の資料などを見ることができる。

当時の様子をレリーフで紹介している。





## b) 第9要塞博物館

### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

施設内の設備や当時の資料などを見ることができる。

当時の様子をレリーフで紹介している。





## b) 第9要塞博物館

### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

施設内の設備や当時の資料などを見ることができる。

写真は、施設内の通路。要塞ということもあり無駄な装飾などはない。

ナチス・ドイツは、これらの施設を要塞ではなく、仮の収容施設として利用した。もともと要塞として建設されているので、捕虜などを留置する施設などもあり、一時的にせよ多くの人を収容するには好都合だったようだ。



## b) 第9要塞博物館

### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

写真は、収容者の部屋の壁の一部。

写真では分かりづらいが、収容者が書いたと思われるメッセージなどが残されている。





## b) 第9要塞博物館

### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

施設内の設備や当時の資料などを見ることができる。

ナチス・ドイツは、これらの施設を要塞ではなく、仮の収容施設として利用した。もともと要塞として建設されているので、捕虜などを留置する施設などもあり、一時的にせよ多くの人を収容するには好都合だったようだ。



## b) 第9要塞博物館

### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

施設内の設備や当時の資料などを見ることができる。

ナチス・ドイツは、これらの施設を要塞ではなく、仮の収容施設として利用した。もともと要塞として建設されているので、捕虜などを留置する施設などもあり、一時的にせよ多くの人を収容するには好都合だったようだ。





## b) 第9要塞博物館



### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

施設内の設備や当時の資料などを見ることができる。

施設に関するものだけでなく、リトアニアに設置されたゲットーの様子やユダヤ人迫害に関する資料、またプロパガンダに用いられたポスターなど当時の社会状況を示す資料なども展示されている。

## b) 第9要塞博物館

### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

施設内の設備や当時の資料などを見ることができる。

施設に関係するものだけでなく、リトアニアに設置されたゲットーの様子やユダヤ人迫害に関する資料、またプロパガンダに用いられたポスターなど当時の社会状況を示す資料なども展示されている。





## b) 第9要塞博物館

### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

施設内の設備や当時の資料などを見ることができる。

施設に関係するものだけでなく、リトアニアに設置されたゲットーの様子やユダヤ人迫害に関する資料、またプロパガンダに用いられたポスターなど当時の社会状況を示す資料なども展示されている。



## b) 第9要塞博物館



### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

施設内の設備や当時の資料などを見ることができる。

施設に関するものだけでなく、リトアニアに設置されたゲットーの様子やユダヤ人迫害に関する資料、またプロパガンダに用いられたポスターなど当時の社会状況を示す資料なども展示されている。



## b) 第9要塞博物館



### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

施設内の設備や当時の資料などを見ることができる。

施設に関係するものだけでなく、リトアニアに設置されたゲットーの様子やユダヤ人迫害に関する資料、またプロパガンダに用いられたポスターなど当時の社会状況を示す資料なども展示されている。

## b) 第9要塞博物館



### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

杉原氏に関する資料展示も行われている。

他国の外交官なども紹介されているが、杉原氏の紹介に多くのスペースを割いており、またプライベートな写真も多く展示されており、杉原氏への親しみや関係の深さを感じる。



## b) 第9要塞博物館



### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

杉原氏に関する資料展示も行われている。

他国の外交官なども紹介されているが、杉原氏の紹介に多くのスペースを割いており、またプライベートな写真も多く展示されており、杉原氏への親しみや関係の深さを感じる。





## b) 第9要塞博物館



### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

杉原氏に関する資料展示も行われている。

他国の外交官なども紹介されているが、杉原氏の紹介に多くのスペースを割いており、またプライベートな写真も多く展示されており、杉原氏への親しみや関係の深さを感じる。

## b) 第9要塞博物館



### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

杉原氏に関する資料展示も行われている。

他国の外交官なども紹介されているが、杉原氏の紹介に多くのスペースを割いており、またプライベートな写真も多く展示されており、杉原氏への親しみや関係の深さを感じる。



## b) 第9要塞博物館



### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

杉原氏に関する資料展示も行われている。

他国の外交官なども紹介されているが、杉原氏の紹介に多くのスペースを割いており、またプライベートな写真も多く展示されており、杉原氏への親しみや関係の深さを感じる。

## b) 第9要塞博物館



### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

杉原氏に関する資料展示も行われている。

他国の外交官なども紹介されているが、杉原氏の紹介に多くのスペースを割いており、またプライベートな写真も多く展示されており、杉原氏への親しみや関係の深さを感じる。



## b) 第9要塞博物館



### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

杉原氏に関する資料展示も行われている。

他国の外交官なども紹介されているが、杉原氏の紹介に多くのスペースを割いており、またプライベートな写真も多く展示されており、杉原氏への親しみや関係の深さを感じる。

杉原氏の執務室を再現したスペース。机には日の丸もある。

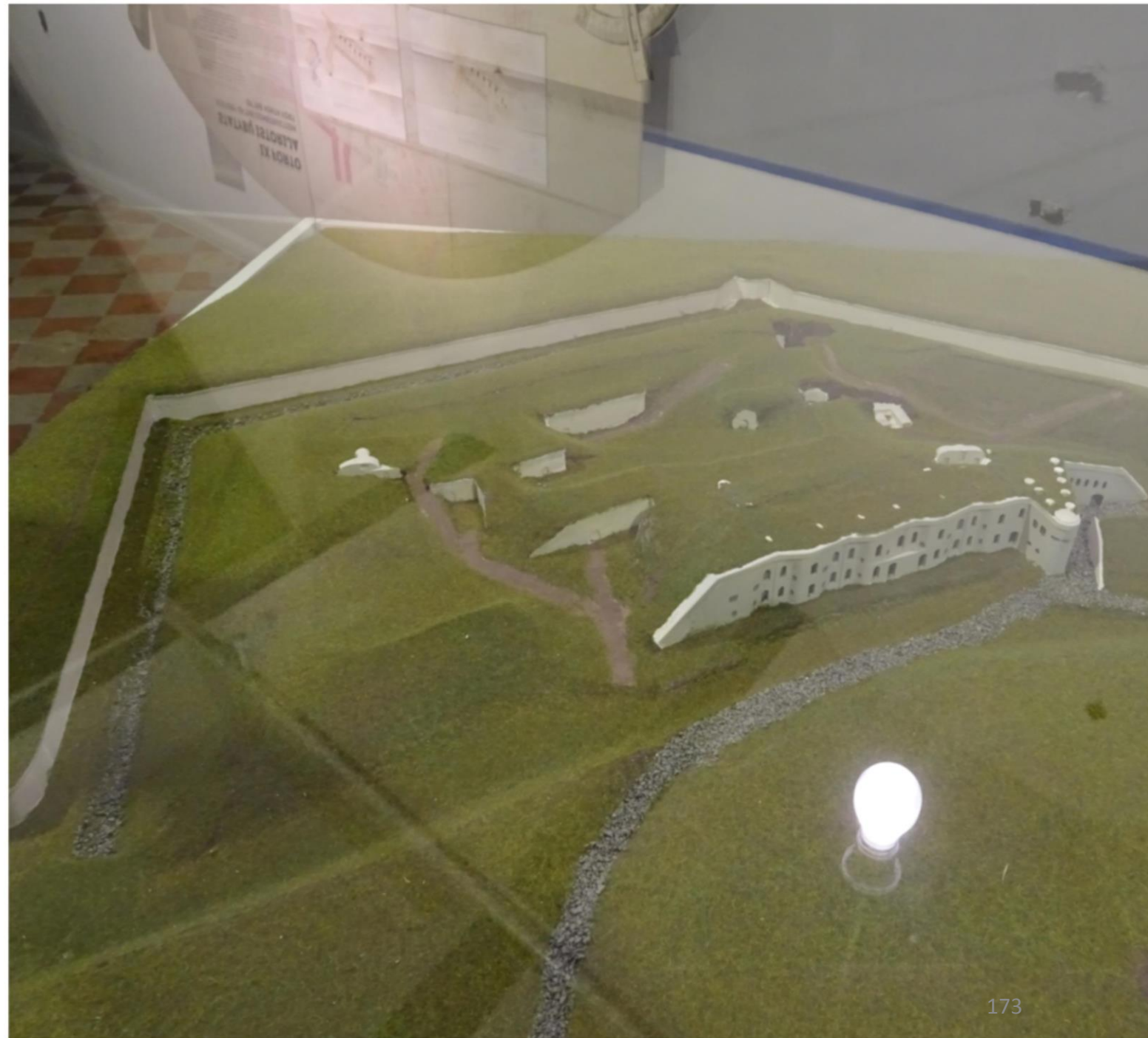
## b) 第9要塞博物館

### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

第9要塞の全景を紹介した模型。

丘の地下に通路と部屋を張り巡らした構造になっている。





## b) 第9要塞博物館



### 【第9要塞博物館】

第9要塞の施設内。

要塞の中庭的な場所から見た。  
外観。模型の一番手前の白い壁  
の部分。

かなり老朽化が進んでいるが、  
改修などは行われていないよう  
だ。



## b) 第9要塞博物館

### 【第9要塞博物館】

第9要塞博物館の出入り口。

要塞や収容所として使われていた当時と変わらない雰囲気を残している。



## b) 第9要塞博物館

### 【第9要塞博物館】

第9要塞博物館の出入り口付近。

要塞や収容所として使われていた  
当時と変わらない雰囲気を残して  
いる。



## b) 第9要塞博物館



### 【第9要塞博物館】

第9要塞博物館の出入り口付近。

要塞や収容所として使われていた当時と変わらない雰囲気を残している。

奥に見えるのは、冒頭のモニュメント。



## b) 第9要塞博物館



### 【第9要塞博物館】

広大な敷地を清掃する作業員。

説明ガイド曰く、永遠に終わらない仕事。

## b) 第9要塞博物館

第9要塞は、19世紀に帝政ロシアが建造した12カ所の要塞の内の一つ。現存するのはこの第9要塞だけだが、大戦中リトアニアを占領したナチス・ドイツは、こうした要塞に5万人にも及ぶユダヤ人達を一時的に収容し強制収容所へと送り出した。施設は現在博物館となっているが、当時のまま残されている施設も多くあり、重々しい雰囲気漂っている。

当時の様子を知ることができる展示もあり、リトアニアにあったゲットーでの生活の様子を収めた写真やプロパガンダに使われたポスターなどが展示されていた。また、ポーランドやリトアニアなどの東ヨーロッパの国々は戦後もソ連の影響下でありユダヤの人々にとっては、不遇の時代が続いたことも理解できた。

そうした展示のなか唐突に杉原さんが紹介されているスペースが登場する。プライベートとおぼしき写真も多数あり、杉原さんとリトアニアの繋がりの強さをあらためて感じた。



## c) 杉原記念館 (旧 カウナス日本領事館跡)

【カウナス旧市街を一望できる高台】

カウナスは、リトアニア第2の都市で、ソビエト連邦合併以前の首都。杉原氏が赴任した領事館もカウナスにあった。







## c) 杉原記念館 (旧 カウナス日本領事館跡)

高台にある公園に植樹された松。  
東日本大震災の犠牲者を悼んで植  
樹されたもの。

日本人にとってリトアニアは決して身近な国とはいえないが、リトアニアの人々は日本に親しみを抱いてくれていることを感じる。



## c) 杉原記念館（旧カウナス日本領事館跡）



### 【杉原記念館】

旧カウナス日本領事館。

現在は、杉原記念館として保存されている。また、地元の大学と連携し建物内に日本文化研究センターも開設されている。

住宅街の一角にあり、杉原記念館となる前は、一般の住宅として使用されていた。現在も周囲は一般の住宅。

領事館時代の門は残っているが、壁は撤去されてしまっている。

また老朽化が進んでいるため、今後の維持管理が課題となっている。



## c) 杉原記念館（旧カウナス日本領事館跡）

### 【杉原記念館】

旧カウナス日本領事館。

現在は、杉原記念館として保存されている。また、地元の大学と連携し建物内に日本文化研究センターも開設されている。

住宅街の一角にあり、杉原記念館となる前は、一般の住宅として使用されていた。現在も周囲は一般の住宅。

領事館時代の門は残っているが、壁は撤去されている。

また、老朽化が進んでいるため今後の、維持管理が課題となっている。





## c) 杉原記念館 (旧カウナス日本領事館跡)

### 【杉原記念館】

旧カウナス日本領事館。

現在は、杉原記念館として保存されている。また、地元の大学と連携し建物内に日本文化研究センターも開設されている。

住宅街の一角にあり、杉原記念館となる前は、一般の住宅として使用されていた。現在も周囲は一般の住宅。

領事館時代の門は残っているが、壁は撤去されている。

また老朽化が進んでいるため、今後の維持管理が課題となっている。





## c) 杉原記念館 (旧カウナス日本領事館跡)

### 【杉原記念館】

旧カウナス日本領事館。

現在は、杉原記念館として保存されている。また、地元の大学と連携し建物内に日本文化研究センターも開設されている。

住宅街の一角にあり、杉原記念館となる前は、一般の住宅として使用されていた。現在も周囲は一般の住宅。

領事館時代の門は残っているが、壁は撤去されている。

また老朽化が進んでいるため、今後の維持管理が課題となっている。





## c) 杉原記念館 (旧カウナス日本領事館跡)

### 【杉原記念館】

シモーナス館長との面談後、写真の女性・ユリアナさんから強制収容と当時のユダヤの人々を取り巻いていた社会情勢に関する体験談を聞かせて頂いた。

家族が強制収容された当時はまだ幼かったが、だからこそ、こうして自分が生き残れたことは、本当に奇跡のような出来事だったと語っておられた。

この方は大戦終了後、旧ソ連の強制収容にも遭遇している。リトアニアから中央アジアへ移送され育ったが、旧ソ連崩壊後リトアニアに戻られたとのこと。

あの時代、多くのユダヤ人が同じような体験をしている。だからこそ共感するところができる。自分は、杉原氏やそのビザとの関わりは無かったが、ユダヤ社会全体が杉原氏のような行動をとった多くの人々に感謝していると話して下さった。





## c) 杉原記念館 (旧 カウナス日本領事館跡)

### 【杉原記念館】

杉原氏の執務室を模した記帳台。

記念館には、年間一万人以上が訪れるとのこと。日本人やユダヤ人関係者が圧倒的に多いが様々な国の方が訪れるそう。

私達が訪問した際にも日本人女性が2人訪れており、期せずして体験談を聞く事ができたことに感動していた。

記念館では、関係する日本の自治体のPR映像も見る事ができる。敦賀市と共に八百津町のVTRも視聴した。ただ、20年以上前のものだった事に残念というか哀愁を感じた。



## c) 杉原記念館（旧カウナス日本領事館跡）

杉原記念館は、旧カウナス日本領事館だった建物を利用している。

記念館となる前は一般住宅として使われていたが、杉原『命の外交官』基金理事長のラムーナス・ガルバラビチュス氏が私財を投じて記念館として保存したとお聴きした。

記念館のシモーナス・ドビダビチュウス館長もユーモアのある親しみを感じる人柄だった。決して広いとは言えない記念館の中には、地元大学の日本文化研究センターが開設され学生が事務作業を行っていた。

また、記念館には年間1万人以上が訪れるとのことだったが、建物の老朽化が問題となっており今後の維持管理が課題となっている。また、関係自治体の紹介VTRも視聴したが八百津町のものは20年以上前のもので、まだ人道の丘を造成し始めた時のものだった。折角多くの人目に止まる機会でもあるので新しいものに替えた方が良いのではないかと感じると同時に悪い意味ではなく、ただなんとも言えないノスタルジーを感じた。（20年以上前の懐かしすぎるというか、見たこともない地元の映像を海外で唐突に目撃したという事実）



# 5. 杉原千畝氏とその行動に関する評価

まとめ

## 5. 杉原千畝氏とその行動に関する評価

結論から言えば、リトアニア国内において、杉原氏は非常に高い評価を得ている。

学校での教材や研究課題に採り上げられたり、「sugiharos/杉原」の名を冠した住所や道路があるのは、高い評価や親しみの証左だと感じる。

また、現地の方の言葉。「少なからぬ人が当時何らかの形でユダヤ人の迫害に関わってきた経緯がある。地元として決して諸手を挙げて喜べる話ではない。しかし、そうした状況を知っているからこそ、杉原氏の採った行動とその勇気に敬意を払わなくてはならない」という思いには感謝と尊重の念しか浮かばない。

クラフクにある杉原記念館は、老朽化による課題があるものの多くの方が施設を訪れており、日本とリトアニアそして世界を結ぶ重要な拠点となっている。ここでの情報発信の在り方は、記念館側と良く検討すべきだと感じる。



## 5. 杉原千畝氏とその行動に関する評価

ユダヤの人々からの評価はとりわけ大きなものがある。

当時、このビザがあったからこそ、杉原氏も行動することができたとも言えるキュラソー・ビザ。これを発給したオランダ領事館のヤン・ツバルテンディク領事らとともに大きな尊敬を集めている。

しかし、ヤン・ツバルテンディク領事らが正規の指示系統の下でビザを発給したのと比較し、杉原氏は本国の指示に逆らってまでビザの発給を行った。このことを日本人以上に深く理解している。

また、ユダヤの人々は当時、救いの手を差し伸べてくれた世界中の多くの人々に感謝し、その想いに応えようとしている。その中で日本人である杉原千畝氏が特別な位置を占めているという事実は、個人の業績ではあるのだが、日本人として誇りに想うべき事だと感じる。同時に、こうした関係がユダヤの人々や世界の人々の日本や日本人に対するイメージに繋がってくるのだと考えるとその功績の大きさは計り知れないと感じる。

# ポーランド共和国・リトアニア共和国視察

視察を終えて



# 視察を終えて

初日の移動から予定していた便の飛行機に乗ることができず、別行動が発生。帰りの便では、航空会社のストライキに遭遇し欠航、滞在が一日延びる。また、車での移動もやたらと長時間・・・などなど移動の度に苦労があったが、予定していた視察は総じて順調に消化することができた。

だが前半のポーランドでの視察は、とりわけ気が重くなるものばかりであった。人は平然とこういうこともできるのだ、という圧倒的な事実を突きつけられる。他国の出来事と割り切り、客観的に見ることもできるが、第2次世界大戦は日本も当事国である。視察で訪れた先々で戦争や歴史の暗部に光を当てることで得られる教訓を次世代に伝えようという決意を感じる。

一方で、私達が当時の日本やその占領地域における出来事について、あまりにも無知であることを痛感した。歴史を曲解し卑下する必要もないが、そこで起こったことを正確に知り適切に検証・評価することは、同じ過ちを繰り返さないために必要なことだ。日本の教育は、その点をどの様に感じているのか疑問を感じた。

# 視察を終えて

ユダヤの人々を取り巻く情勢は、一朝一夕で創られたものではなく長い歴史の中で醸成されてきたものであった。

ユダヤの人々もそうした偏見が先の悲劇の根底にあることを理解しているのだろう。各地でユダヤに関する博物館や研究所が開設され民族史研究とともに情報発信に努めていることが窺える。

人種差別的な思想が容認され悲劇的な事態が進行していくなかで、杉原千畝氏の選択した行動が、その暗い時代における一筋の光であったこと事を、広く世界へ知らせようとする行動を下さる人々がいる。こうした事実の拡がりや当事者の努力が、多くの人々に世界が抱える課題に関心を寄せるきっかけを与えると信じたい。

駆け足ではあったが、非常に感慨深い視察だった。杉原千畝氏を通じ、リトアニアやユダヤ、世界の人々が日本や岐阜県を知り興味を抱くきっかけになっていることは、単純に凄いことだと感じた。こうした繋がりを大切にし、私達自身も杉原千畝氏の想いを引き継ぐと同時にその偉業を世界に発信していくことが必要だと確信した。



# 視察を終えて

杉原千畝氏の個人としてのご功績をどの様に県政に反映させるか。烏澁がましいにも程があることを自覚しなくてはならない。しかし、あえて二点上げてみたいと思う。

一つはやはり教育であろう。人道という言葉に要約されてしまいが、杉原氏は、宗教や文化また民族の枠組みを超え、国益よりも優先されなく、日本ではならない大切なものがあることを示した。そして、このことは日本人の価値観のみならず、世界が共感できるものであった。これから流動的かつ多様な価値観の世界を生きていく子供達にとって、普遍的な価値をもつ重要な視点だと感じる。また、杉原氏を通じて学習を深めることで、当時の世界情勢を宗教・民族・文化など幅広い視点から多角的に理解していくことに繋がるのではないかと考える。

二点目は、杉原氏を通じた国際交流の活性化だ。杉原氏を尊敬し慕っている人々は、ユダヤ人関係者に限らず世界に多くいる。こうした人々は、有り難いことに日本や岐阜県に対し親しみと関心を寄せている。また、日本国内にも杉原氏の足跡を辿る人が多くいる。これらの人々と様々なレベルでの交流を持つことは、観光に限らず岐阜県として海外戦略の選択肢を増やすことに繋がるのではないかと考える。

# ヘルシンキ空港にて

ヘルシンキ空港内の和食屋。

「YAKUZA／ヤクザ」という衝撃的な店名だった。

アメリカや西欧だけでなく東欧でも和食は人気があるようだ。

ポーランドやリトアニアの街中でも寿司バーや日本酒バーのようなお店をたくさん見た。残念ながら、経営者のほとんどが、中国人か韓国人とのこと。

値段も、現地の食事と比べるとかなり高い。

なぜか亀甲萬の醤油が多い。





# ヘルシンキ空 港にて

ヘルシンキ空港内の和食屋。

「YAKUZA／ヤクザ」という衝撃的な店名だった。

日本人のイメージなのかヤクザのイメージなのか分からないがいろいろと突っ込みどころが満載だった。

自分たちのことを的確に理解し、印象を伝えてもらうという事はやはり難しいことなのだと感じた。



# 海外視察報告 終了。

